

狭山市学校施設長寿命化計画

令和 3 年 8 月

狭山市教育委員会

狭山市学校施設長寿命化計画

目次

第1章	学校施設長寿命化計画の目的等	
1	目的と位置づけ	1
2	計画期間	2
3	対象施設	2
4	長寿命化とは	2
第2章	学校施設の老朽化状況	
1	学校施設の概要	3
2	配置状況	4
3	建物の保有状況	6
4	老朽化状況の把握	7
5	学校施設関連経費と将来更新コスト	9
第3章	学校施設を取り巻く現状と課題	
1	児童・生徒数及び学級数の推移	14
2	学校の規模と配置の適正化の現状	23
第4章	学校施設整備方針	
1	学校施設の目指すべき姿	25
2	学校施設整備方針	26
3	施設整備の水準	28
第5章	学校施設長寿命化計画	
1	整備方式の考え方	29
2	整備スケジュール（第1期）	32
3	長期の整備費用	33
第6章	計画の実行に向けて ～管理・運営面を含めたさらなる改善～	35
第7章	計画の継続的運用方針	
1	情報基盤の整備と活用	37
2	推進体制等の整備	37
3	関連計画との調整	38
4	フォローアップ	38

参考資料

建物情報一覧表

第1章 学校施設長寿命化計画の目的等

1 目的と位置づけ

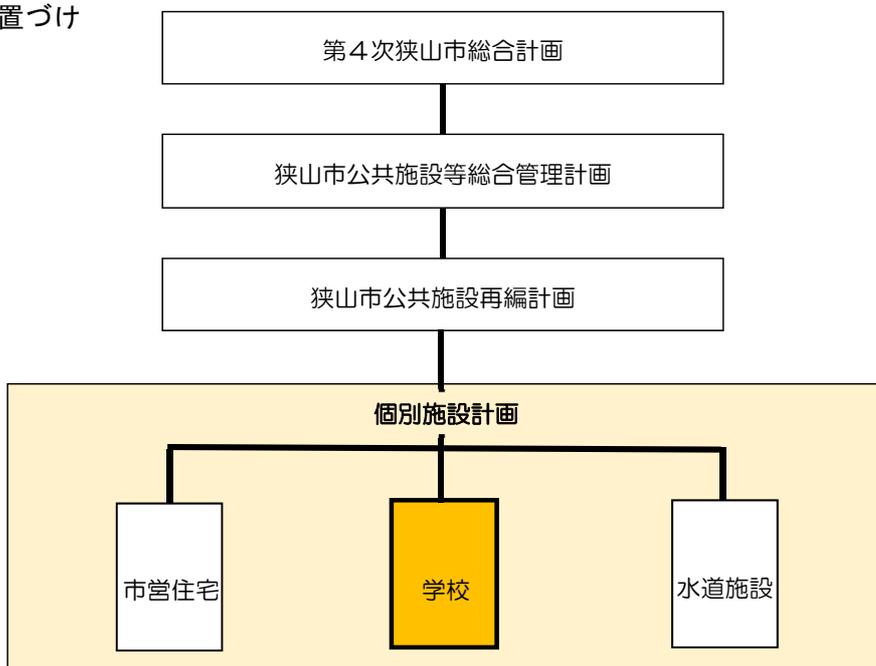
本市では、昭和40年代からの人口増加に伴う公共施設等によるサービスに対する需要の増加に應えるために、集中的に公共施設等を建設してきました。学校施設においても、昭和40年代後半から50年代にかけての児童・生徒が急増した時期に一斉に整備されたものが多く、その約9割が建築後30年を経過しており、老朽化が進行しています。

また、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、労働人口の減少などの社会情勢が大きく変化していることを踏まえ、公共施設の今後のあり方を見直すことも求められているところであります。こうしたことから、次世代へ負担を残すことなく必要な公共施設等のサービスを持続的に提供することを目的として、平成29年3月に「狭山市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」）」を策定するとともに、より具体的な個別施設計画を策定するうえでの指針となるものとして、平成30年4月に「狭山市公共施設再編計画（以下「再編計画」）」を策定しました。

一方、本市では、少子化の進行等により児童・生徒数が減少している現状を踏まえ、学校規模が小さくなることにより生じる課題を解消し、子供たちのより良い教育環境を目指して、小・中学校の規模と配置の適正化に取り組んでまいりました。現在は、平成30年3月に改定した「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針（以下「適正化基本方針」）」を受けて、学校再編に向けた具体的な手法の検討などを行っているところです。

本計画は、上位計画である「総合管理計画」との整合を図るとともに、「再編計画」を補完するものとして、小・中学校の規模と配置の適正化に即しながら、学校施設の中長期的な維持管理コストの縮減や改修費用の平準化に努め、継続的な施設整備を行うことで、学校施設に求められる教育機能を確保することを目的として策定します。

図表 計画の位置づけ



2 計画期間

2021(令和3)年度から2060(令和42)年度までの40年間を計画期間とします。

2030(令和12)年度までを第1期計画期間とし、その後、10年ごとに2期、3期、4期としています。

3 対象施設

小学校15校、中学校8校の計23校を対象とします。

4 長寿命化とは

“長寿命化”とは、予防保全型の計画的な保全を行い、建物の健全性評価から想定される耐用年数まで、建物を良い状態に保ちながら使う考え方です。

“長寿命化改修”は、老朽化した建物を将来にわたって長く使い続けるため、単に物理的な不具合を直すだけでなく、建物の機能や性能を求められている水準まで向上させることを言います。

“長寿命化改修”は、「総合管理計画」では“大規模改修”と呼んでいました。いずれも単純な劣化部位の機能回復だけでなく、機能向上を含めた改修を意味しています。

なお、“中規模修繕”は、両計画でも同じ意味で、経年により通常発生する損耗、機能低下に対する中規模な修繕を行い、機能を回復することを意味しています。

第2章 学校施設の老朽化状況

1 学校施設の概要

本市では、小学校 15 校・中学校 8 校の計 23 校を保有しています。合計延床面積は約 16.5 万㎡です。

学校の築年数は入間川小学校を除いて、全て築 30 年以上経過しています。

図表 学校施設一覧（2020(令和2)年5月1日時点）

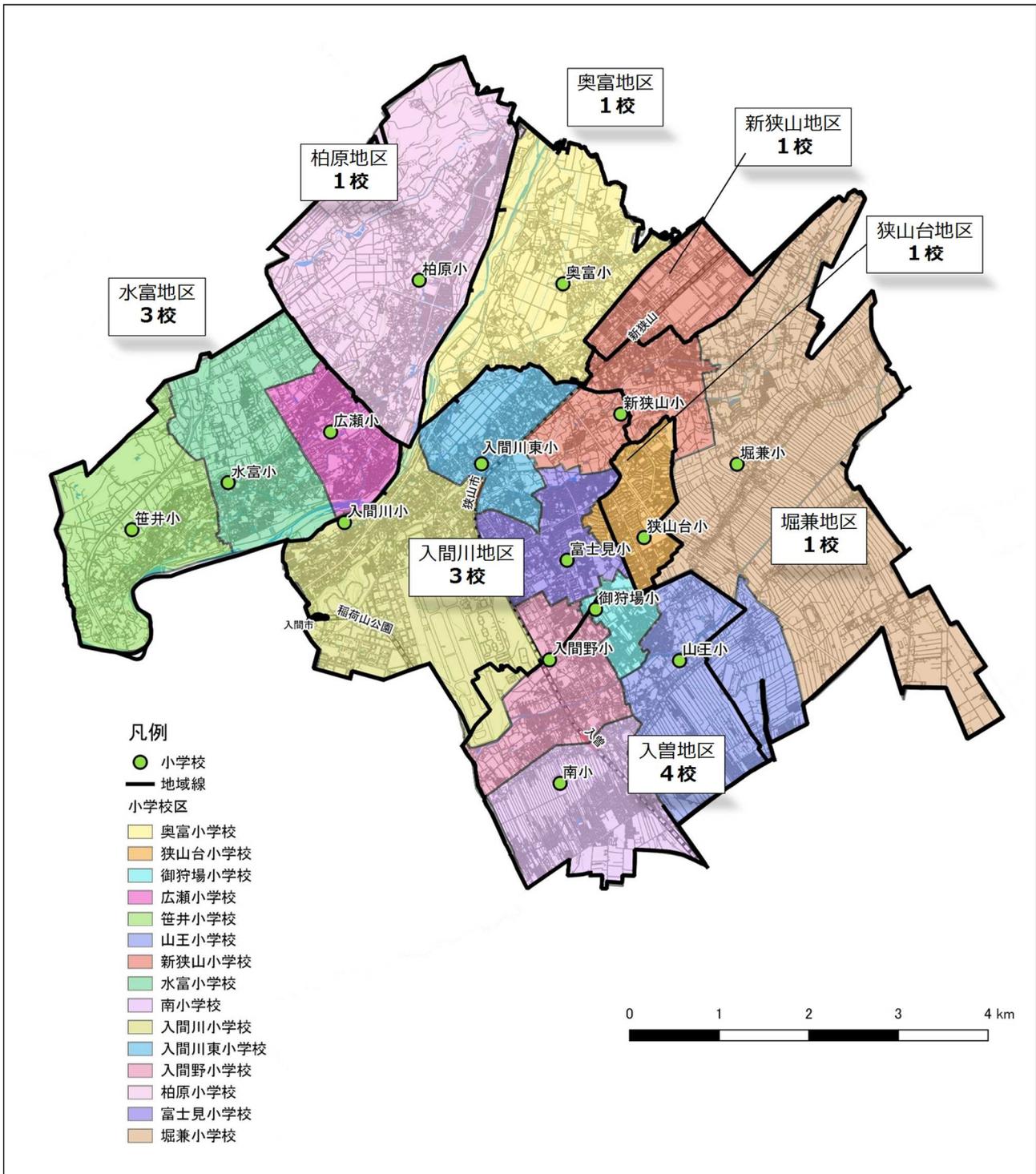
名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	児童生徒数(人)		学級数(学級)		
				通常学級 在籍者数	特別支援学級 在籍者数	通常学級	特別支援 学級	
小学校	1 入間川小学校	鶺ノ木 5-9	9,859	平成11	490	7	16	2
	2 入間川東小学校	入間川 2-7-23	6,633	昭和44	619	10	20	2
	3 富士見小学校	中央 4-17-1	7,151	昭和48	644	15	20	2
	4 南小学校	水野 815-1	8,161	昭和45	519	22	16	4
	5 山王小学校	南入曽 55	8,118	昭和51	424	8	14	2
	6 入間野小学校	北入曽 980	6,142	昭和53	456	2	15	1
	7 御狩場小学校	北入曽 755-4	6,203	昭和57	213	4	8	1
	8 堀兼小学校	堀兼 1234	6,404	昭和42	252	2	11	1
	9 狭山台小学校	狭山台 4-25	8,512	昭和49	418	14	13	3
	10 新狭山小学校	入間川 1108	7,634	昭和50	460	15	16	3
	11 奥富小学校	下奥富 1019	5,059	昭和40	334	0	12	0
	12 柏原小学校	柏原 1141	7,075	昭和39	518	11	18	3
	13 水富小学校	根岸 2-22-1	5,201	昭和40	347	8	12	1
	14 広瀬小学校	広瀬東 4-4-1	6,958	昭和50	444	17	14	3
	15 笹井小学校	笹井 1700	5,946	昭和56	252	4	9	1
小学校 計			105,056		6,390	139	214	29
中学校	1 中央中学校	入間川 1752-1	7,225	昭和59	445	12	12	2
	2 入間川中学校	鶺ノ木 6-46	8,061	昭和55	232	0	6	0
	3 山王中学校	南入曽 157	9,120	昭和52	307	14	9	3
	4 入間野中学校	北入曽 1028-1	8,283	昭和62	529	0	15	0
	5 堀兼中学校	堀兼 1237	7,292	昭和45	384	7	12	2
	6 狭山台中学校	狭山台 4-26	9,287	昭和50	559	12	15	2
	7 西中学校	広瀬東 3-23-1	11,564	昭和36	585	24	15	4
	8 柏原中学校	柏原 2520-11	6,889	昭和56	250	0	8	0
中学校 計			67,721		3,291	69	92	13
小・中学校 合計			172,777		9,681	208	306	42

2 配置状況

(1) 小学校

地域ごとの学校の設置状況をみると、1地域に1校から最大4校まで設置状況に開きがあります。

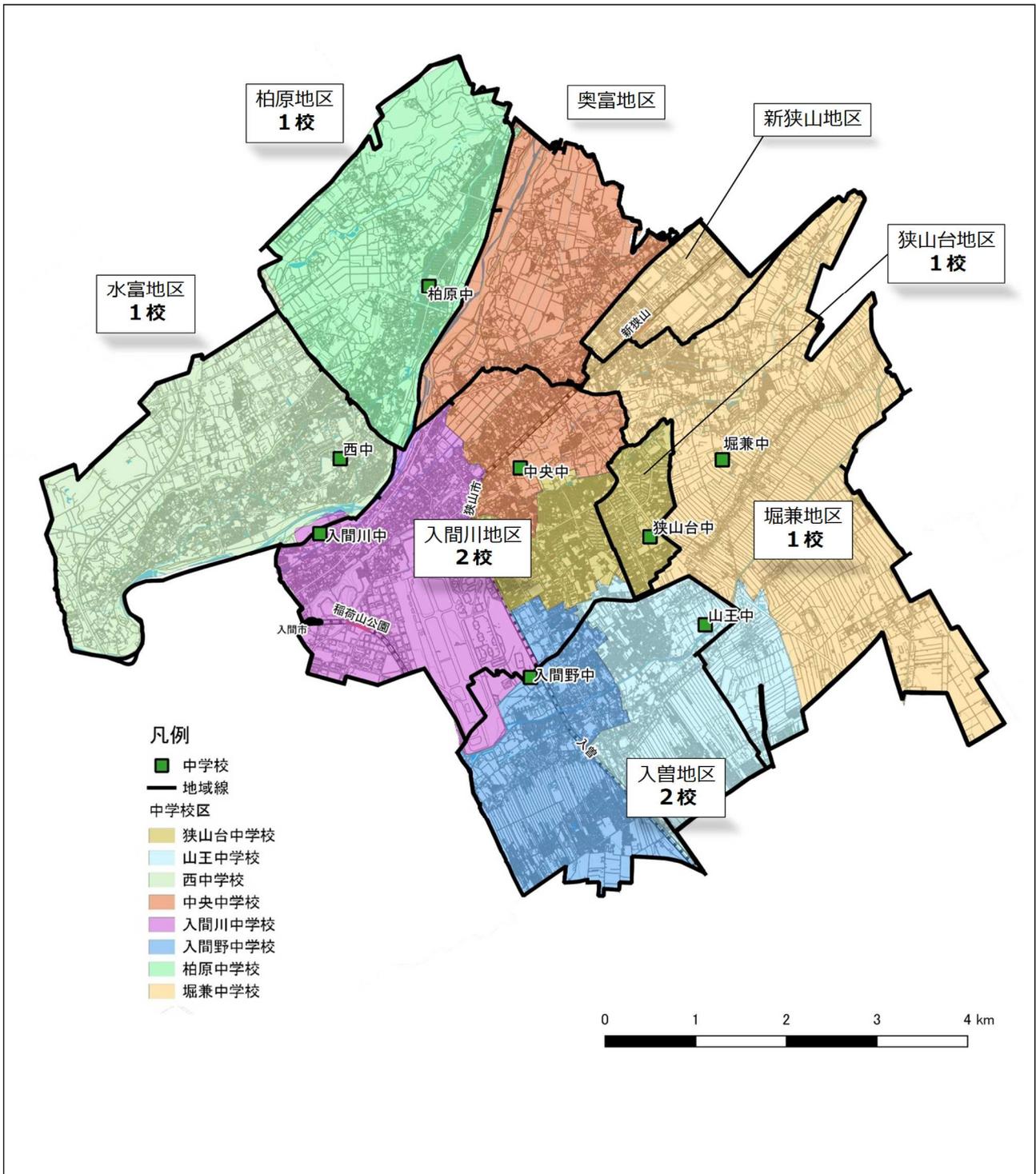
図表 小学校配置図



(2) 中学校

地域ごとの学校の設置状況をみると、設置されていない地域や2校設置されている地域など設置状況に開きがあります。

図表 中学校配置図



3 建物の保有状況

(1) 保有状況

校舎及びそれに附帯する全ての施設（体育館、武道場等）をまとめました。

施設別にみると、小学校約 10.1 万㎡、中学校約 6.4 万㎡、総合計は約 16.5 万㎡で、このうち小学校が約 61%を占めます。

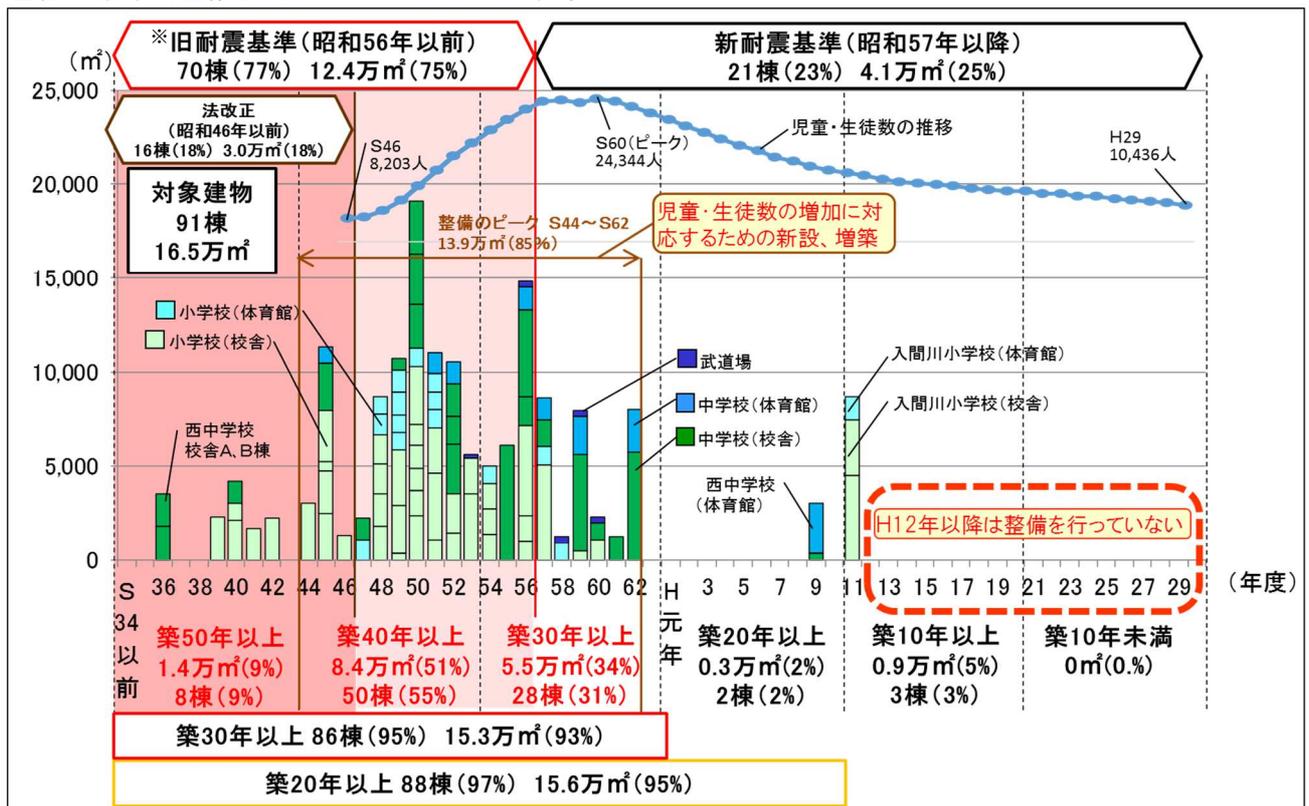
図表 保有状況一覧表

学校名	建物分類	棟数	延床面積	割合	1校当たり棟数	1校当たり床面積
小学校 15校	校舎	42	85,870	52%	2.8	5,725
	体育館	15	15,165	9%	1.0	1,011
小計		57	101,035	61%	3.8	6,736
中学校 8校	校舎	21	49,758	30%	2.6	6,220
	体育館	8	12,514	8%	1.0	1,564
	武道場	5	1,617	1%	0.6	202
小計		34	63,889	39%	4.3	7,986
合計		91	164,924	100%		

(2) 築年別整備状況

※旧耐震基準の建物が 70 棟 12.4 万㎡（延床面積で 75%）、また築 30 年以上の建物は、86 棟 15.3 万㎡（延床面積で 93%）となっています。児童・生徒数の増加に対応するための新設、増築は 1999(平成 11)年の入間川小学校の移転新築以降は、整備を行っていません。

図表 築年別整備状況（2018（平成 30）年時点）



4 老朽化状況の把握

(1) 構造躯体の健全性

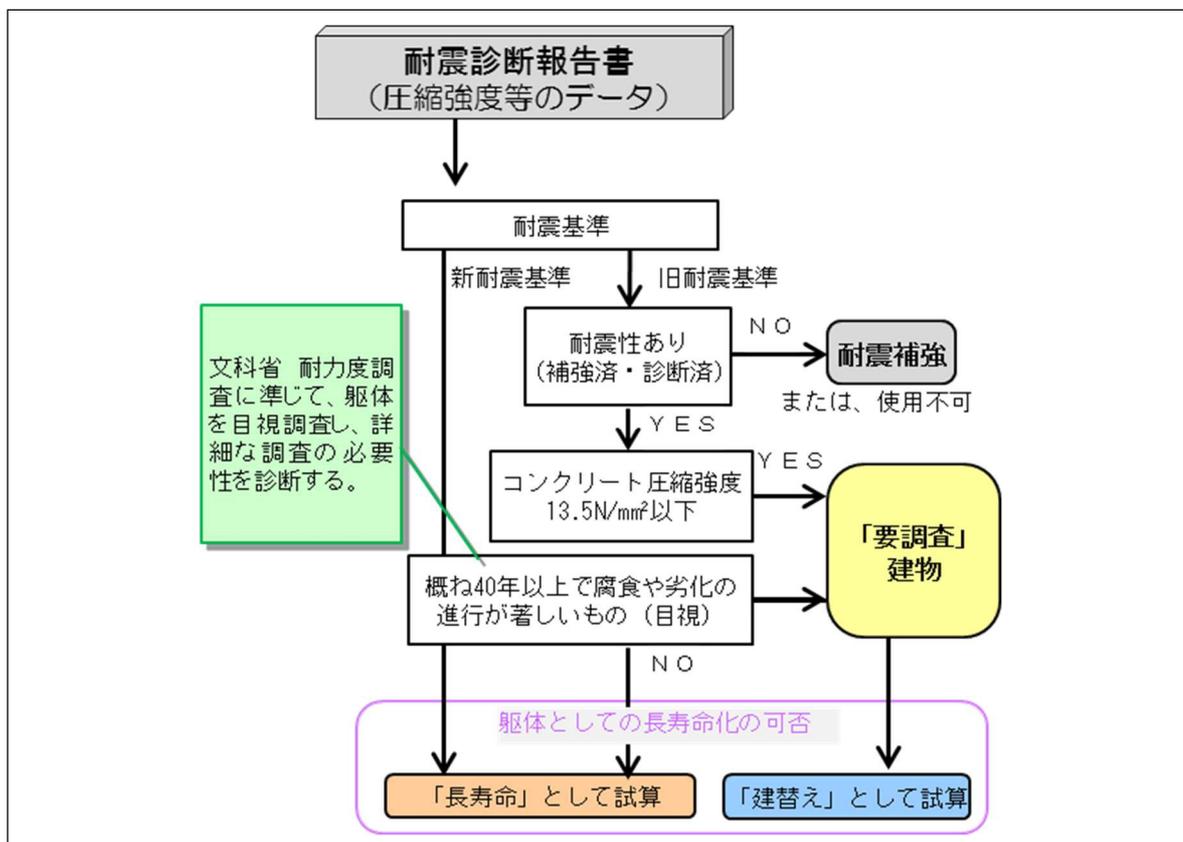
ア 判断方法

躯体の健全性の把握は、既存の耐震診断報告書のデータによる評価から把握します。下図に従い躯体としての長寿命化の可否を判断します。また、鉄骨造の建物については、鉄骨の腐食状況や筋かいのたわみ等の状況を文部科学省の耐力度調査に準じた詳細な調査の必要性を診断した上で、長寿命化の可否を判断します。

イ 躯体の状況

耐震診断時のデータにより、国が定めている長寿命化改修をするために必要なコンクリート圧縮強度が 13.5N/mm^2 以下となった建物はなく、対象建物は計画策定段階においては長寿命化可能と判断します。ただし、概ね築40年以上で腐食や劣化の進行が著しい建物は要調査とし、建替えになる場合があります。

図表 判断フロー



(2) 構造躯体以外の老朽化状況評価

ア 評価方法

構造躯体以外に計画的な修繕が必要と考えられる部位（屋上防水・外壁・外部建具・内装・電気・給排水・空調・その他設備・プール・グラウンドなど）を選定し、現地確認により、棟ごとにA、B、C、Dの4段階の評価付けを行います。また、教育環境の把握として、バリアフリー化の対応状況とトイレ改修の実施状況を調査します。

図表 劣化状況評価基準

基準	
良好	A 概ね良好
	B 部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)
	C 広範囲に劣化 (安全上、機能上、低下の兆し)
劣化	D 早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)

イ 構造躯体以外の老朽化状況まとめ

校舎は、部位の機能回復工事が屋根・屋上、冷暖房設備以外はほとんど行われていないため、劣化が進行しています。

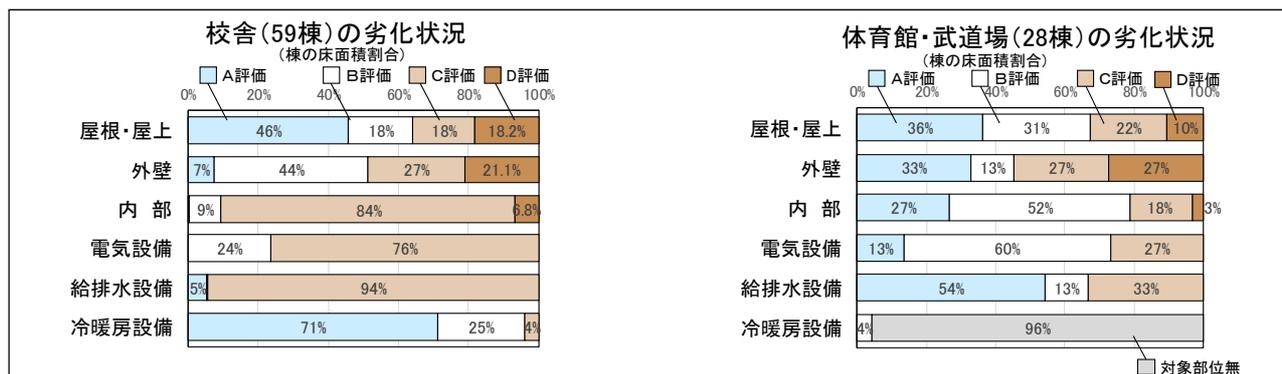
近年の屋上防水改修により、比較的良好な建物が半数を占めていますが、屋根・屋上、外壁、内部にD評価の学校があり、特に、築30年以上の建物では、C・D評価が多く、劣化が進行しています。

内部はただちに改修が必要な状態ではありませんが、大規模な改修を行っていない学校もあり、壁面のひび割れや塗装の剥がれ及び床の摩耗など改修が必要な棟もあります。また、設備については適宜、修繕や部品の交換によって機能を維持していますが、電気設備や給排水衛生設備は、全面的な更新が必要になっています。冷暖房設備は、防衛省の補助事業により、整備されており良好です。

長寿命化の際には内部も含めた改修を行い、古い仕様・設備の更新や間仕切りなども含めた学習環境の変化への対応が必要となります。しかし、残りの使用年数によっては大規模な改修に利点がないことも考えられるため、建替えとの整備費用の比較により今後の方向性を判断する必要があります。

体育館は、今のところ比較的劣化は進行していませんが、今後は、経年の劣化対応、古い設備の更新が必要となります。

図表 調査結果の概要（校舎・屋内運動場）

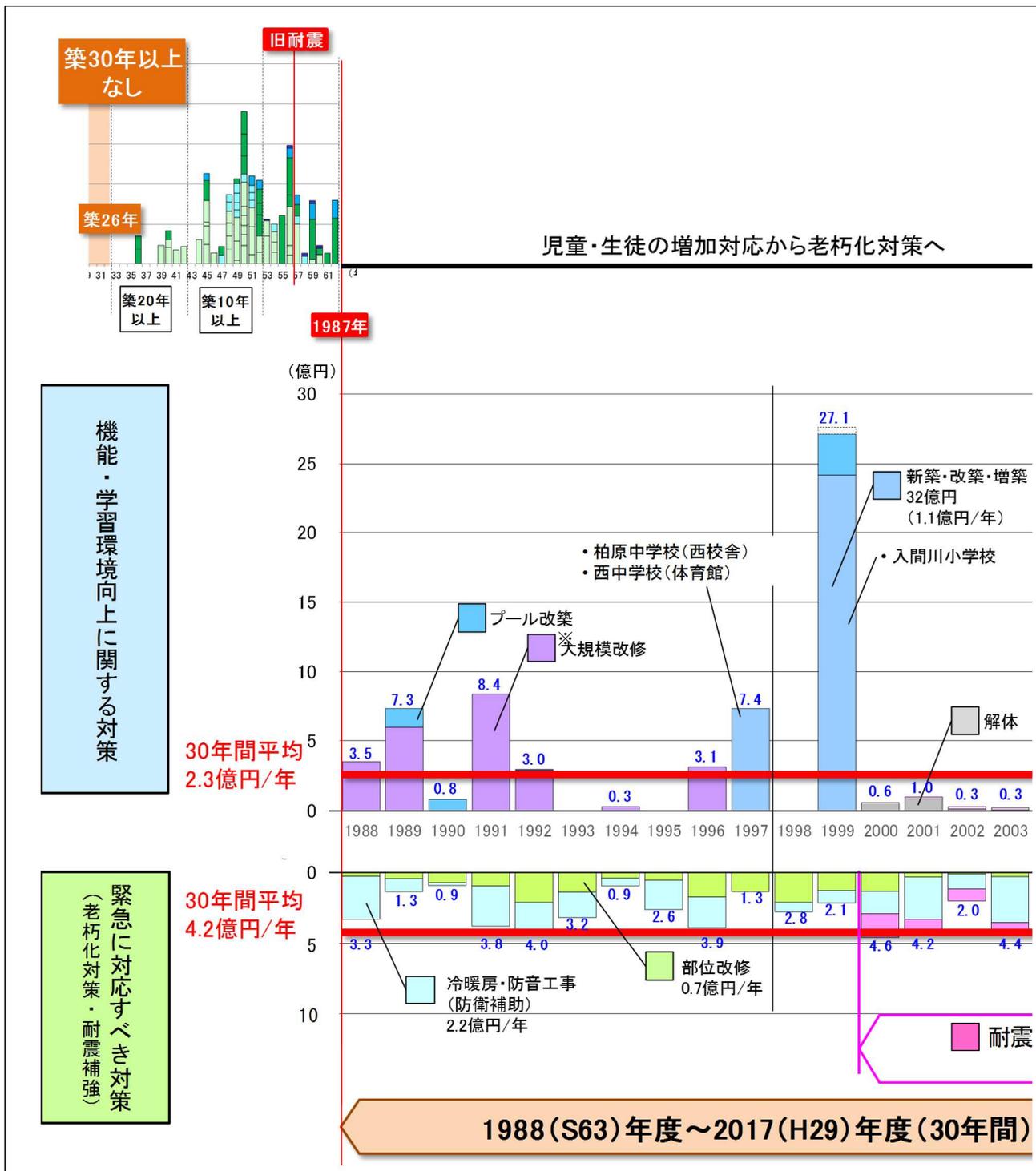


5 学校施設関連経費と将来更新コスト

(1) 学校施設関連経費

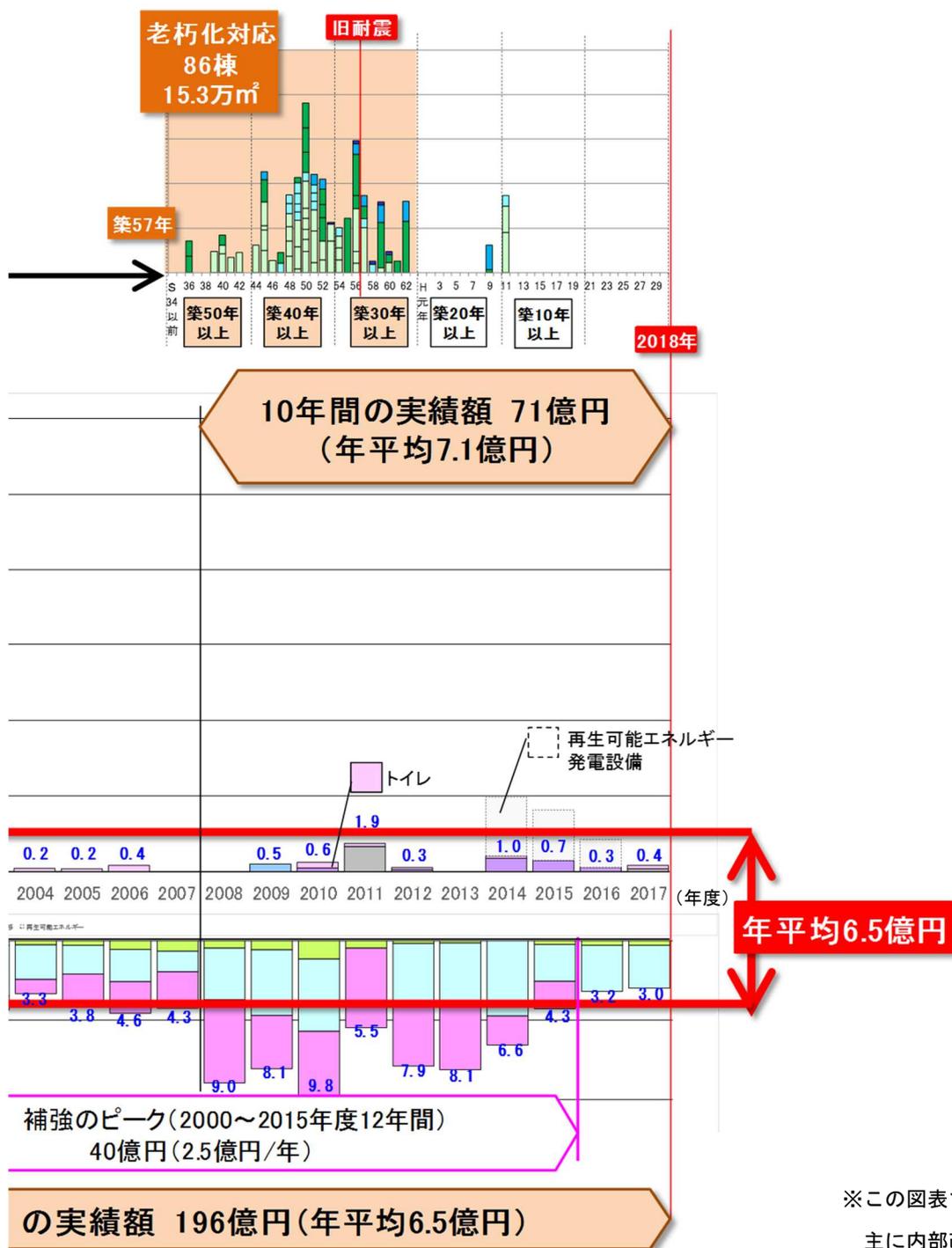
約30年前の1987(昭和62)年時点の学校施設は、築30年以上経過した建物はなく、児童・生徒数の急増に伴う施設整備が行われていました。その後は、整備した建物の修繕・改修などの対応が中心となり、現在では、築30年以上は91棟中86棟、約95%の建物が老朽化しています。この30年間の施設関連経費は総額196億円、年平均6.5億円となっています。

図表 過去30年間の施設関連経費の推移



過去 30 年間の内容をみると、1997(平成 9)年までの 10 年間は学校施設内部の大規模改修を中心に実施、次の 10 年間は、入間川小学校の改築と耐震補強の一部に着手し、直近の 10 年間は耐震補強を実施してきました。現在は 2017(平成 29)年~2022(令和 4)年にかけて、全学校の 1 系統のトイレ改修を実施しています。

直近 10 年間の施設関連経費は、年平均 7.1 億円です。



(2) 将来更新コスト

学校施設を今後維持するのにかかる費用をシミュレーションし、今後の方向性を定めま
す。アは築 50 年で建替えを行う従来型の場合、イとウは建物を 80 年間活用するとした
長寿命化型の場合で、後 40 年以上使用することが可能です。その内、イは旧耐震基準（築
年 1981 年以前）の建物を築 60 年で建替えを行った場合、ウは 1971 年以前（※帯筋等
の改正年）の建物を長寿命化改修しても活用できる 80 年間までの残り年数が短く、費用対
効果が見込めないことが予想されるため、築 60 年で建替えとし、1972 年以降の建物は
80 年間に達するまで活用する場合です。イとウの建替え後の棟は、長寿命化のための中規
模修繕・改修を 20 年サイクルで実施します。

ア 従来型

建築後 30 年で中規模修繕を行い、築 50 年で建替えを行う条件で試算した場合、
2021(令和 3)年から 40 年間で総額 729 億円・年平均 18.2 億円/年、20 年間で総額
582 億円・年平均 29.1 億円/年で、過去の施設関連経費 7.1 億円/年と比較して 4.1 倍
の差となります。

イ 長寿命化型①

建物の目標使用年数を延ばすため、「建築後 40 年で長寿命化改修を行い、築 80 年ま
で使用する。また 20 年周期で修繕を実施」と仮定すると、旧耐震基準の建物が 12.4 万
㎡ (75%) と多いことから、建替えが集中し、直近に多くの整備費用が必要となります。
2021(令和 3)年から 20 年間で総額 509 億円・年平均 25.5 億円/年で、従来型と比較
し年当たり 3.6 億円 (12%) の縮減となります。

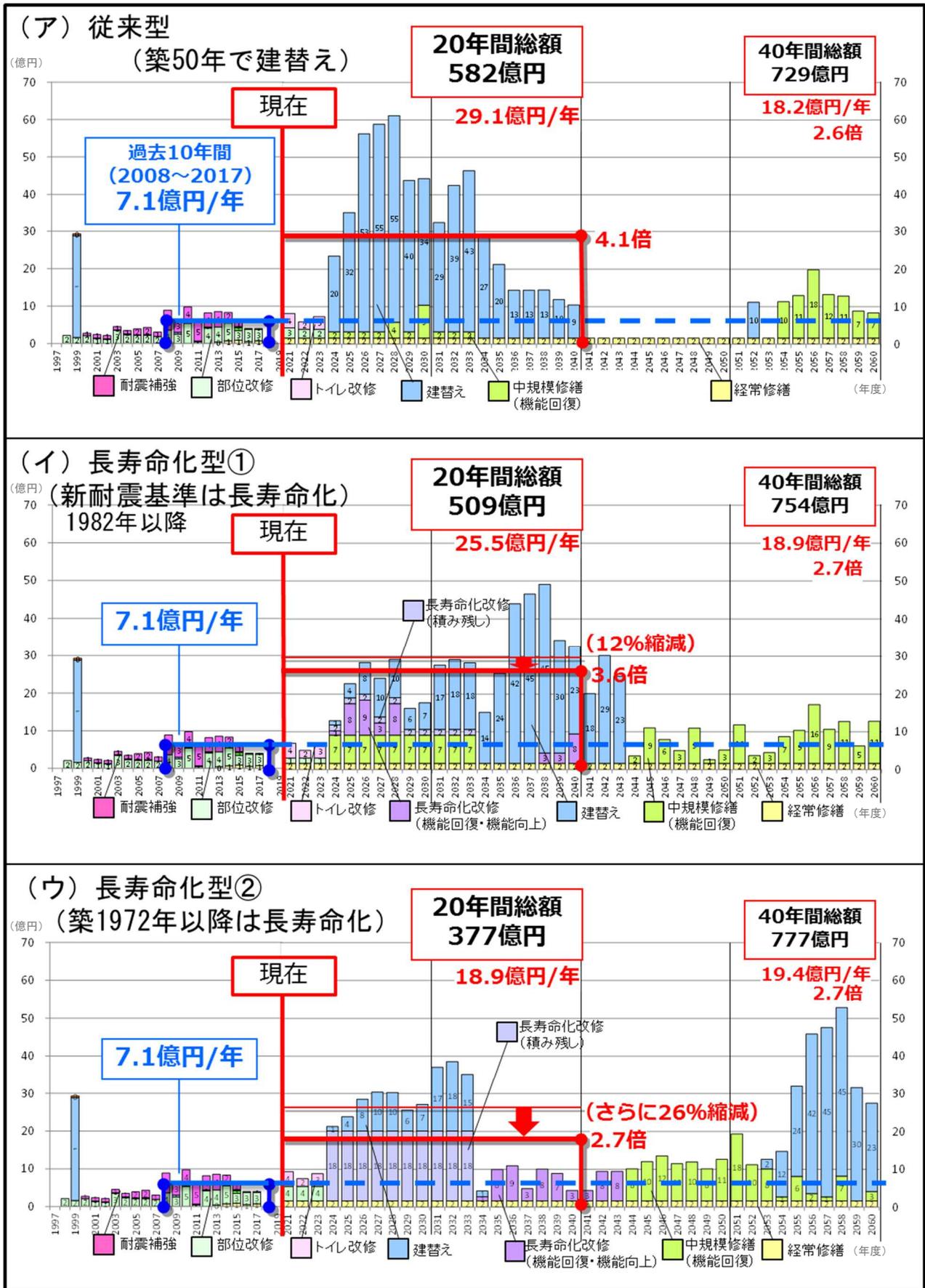
ウ 長寿命化型②

長寿命化を実施する範囲を旧耐震基準の中でも、1972 年以降の建物を長寿命化した
場合、2021(令和 3)年から 20 年間で総額 377 億円・年平均 18.9 億円/年で、さらに
長寿命化①と比較し年当たり 6.6 億円 (26%) の縮減となります。ただし、過去の施設
関連経費 7.1 億円/年との比較では、2.7 倍となり、大きくかい離したものとなります。

学校施設が全体的に老朽化しているため、一律の整備条件で建替えや長寿命化改修を
行くと、予算の平準化が難しくなります。今後は、予算の縮減・平準化と効率的な施設整
備を両立するため、老朽化状況を踏まえ設定された優先順位に従い、建替えと長寿命化改
修を併用して整備を行っていく必要があります。

※建築基準法の改正で、鉄筋コンクリート柱の中の縦筋を囲む鉄筋（フープまたは帯筋）の間隔
を、今までの三分之一にする内容で、より柱の強度が高まっています。

図表 将来更新コストシミュレーション（2021（令和3）年から2040（令和22）年）



《参考 学校施設の主な劣化状況》



※保護防水に表面摩耗が見られる。目地の劣化により、雑草や苔が生えている。下階に雨漏りしている場合もある。
※保護防水は、耐用年数の長い工法。



※露出防水（塗膜）に補修跡が多数見られる。経年により、改修時期を迎えている。
※露出防水は、適正時期に改修が必要。



シングル葺きの勾配屋根に汚れ、苔が生えている。再塗装することで、長く使用することができ、美観も損なわない。金属屋根も同様に腐食させないことが重要。



防水層に植物が生えている。植物の根は防水層を破り雨漏りにつながる。枯れ葉などがルーフトレの詰まりにつながるため、定期的な清掃も重要。



外壁にひび割れ補修跡が多数見られる。ひび割れから雨水等がコンクリート躯体に浸入し、劣化を進行させる。ひび割れ補修と再塗装により、コンクリート躯体を長持ちさせることが長寿命化には重要。



吹付材とコンクリートの間に雨水や空気が入り、膨れや剥離等の劣化が進行。コンクリート躯体にひび割れ等があると劣化を進行させる。適正時期に再塗装する必要がある。



外壁のモルタル部分が剥落している。児童・生徒がケガをする恐れもあるため、日頃から点検することが望ましい。落下しそうな部分は先に落とし、児童・生徒が近づかないような対処が必要。



雨水の浸入により、鉄筋の腐食膨張が起きて、コンクリートが剥落している。躯体補修と再塗装が必要。適正時期に再塗装することで、コンクリート躯体を保護することが重要。

第3章 学校施設を取り巻く現状と課題

1 児童・生徒数及び学級数の推移

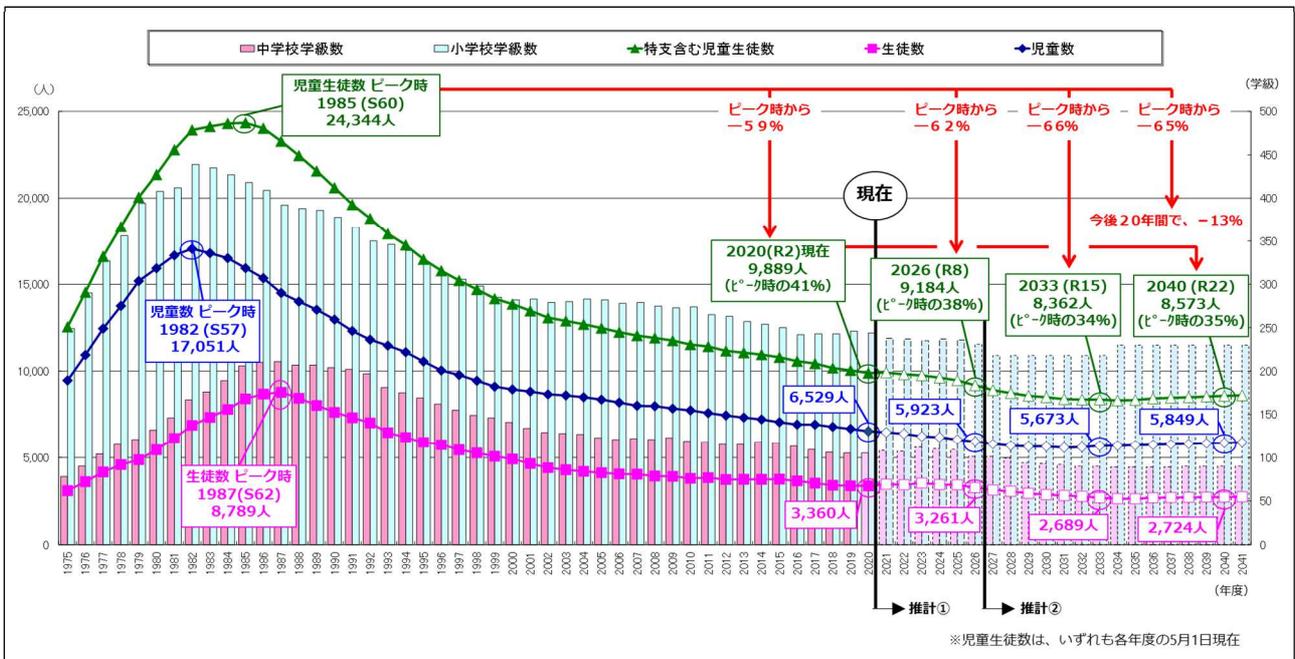
(1) 市全体

本市の児童・生徒数は、1985(昭和60)年をピークにその後減少に転じ、2020(令和2)年時点で9,889人ピーク時の約41%となっています。

学務課による35人学級へ移行した場合の児童・生徒数の推計では、減少傾向が続き2026(令和8)年では、9,184人となります。その後は、狭山市人口ビジョンの7歳から15歳の地区別人口増減率に基づき推計すると、減少傾向で推移し、2033(令和15)年以降は微増傾向となり、2040(令和22)年には8,573人となる予測となっています。

今後の開発動向や地域の人口動向等により将来動向は不透明のため、適宜将来推計も見直して継続的に変化を把握する必要があります。

図表 児童・生徒数の推移及び将来予測



出典：～2015年

狭山市公共施設白書

2016年～2020年 学務課資料（各年5月1日現在の児童・生徒数・学級数）

2021年～2026年 推計①：学務課推計（R2.12.17 35人学級へ移行児童・生徒数シミュレーション）

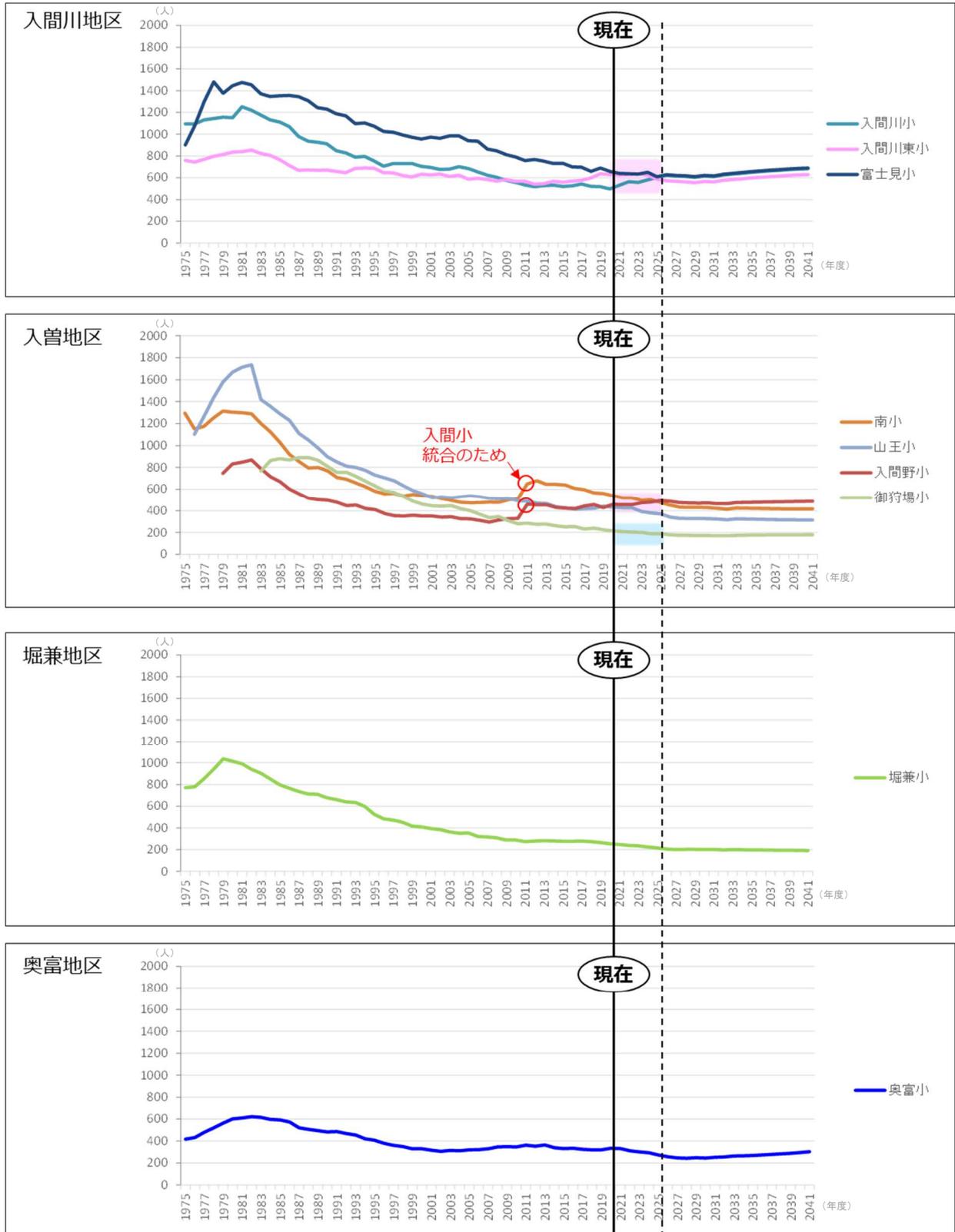
2027年～2040年 推計②：「狭山市人口ビジョン（平成28年3月発行）」（狭山市人口推計）の7歳から15歳の地区別人口増減率に基づく推計

(2) 学校別児童・生徒数の変化

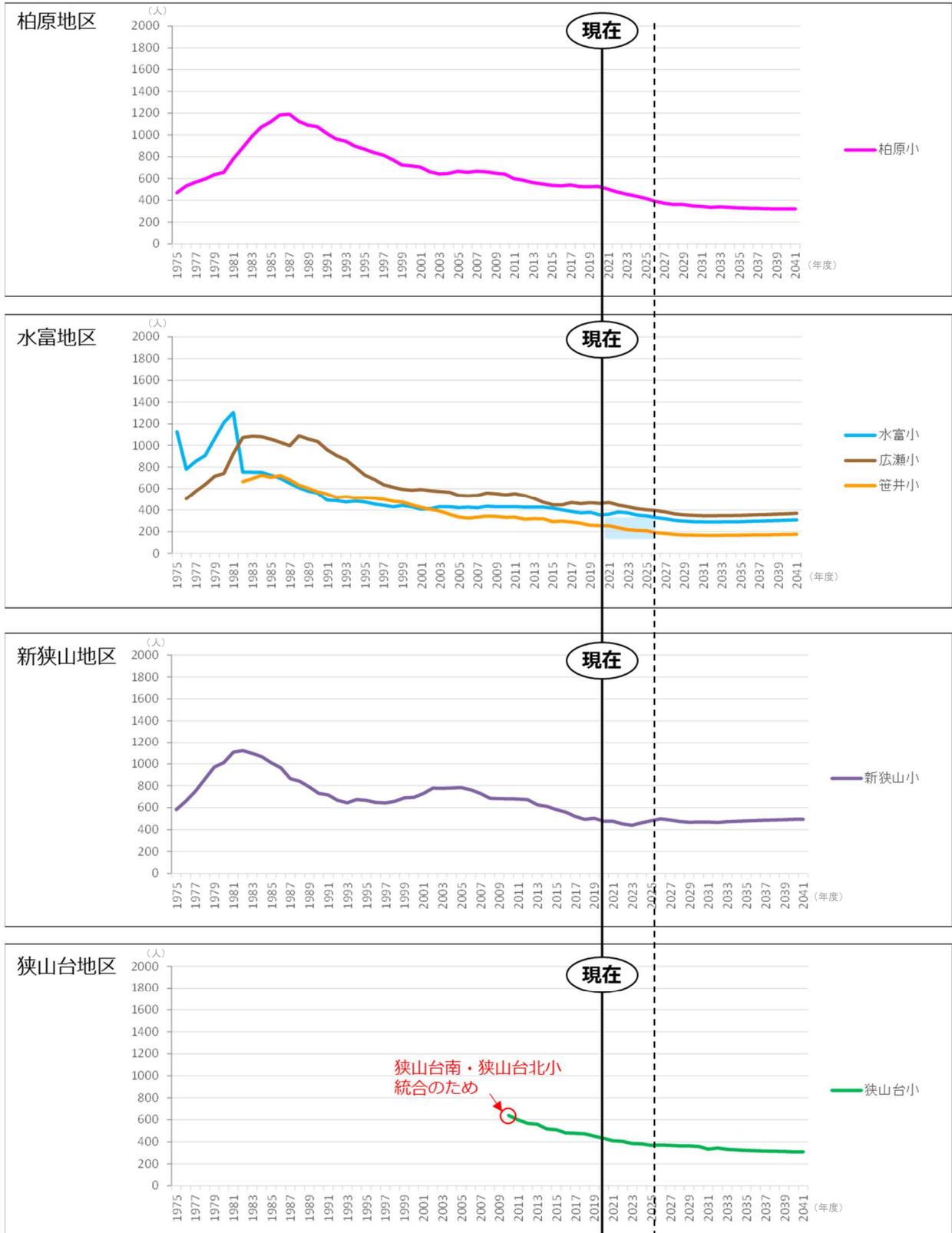
① 小学校

学校別では、基本的に減少傾向で推移していますが、入間川小、富士見小、入間野小及び新狭山小など微増予測となっている学校もあります。

図表 小学校別児童数の推移①



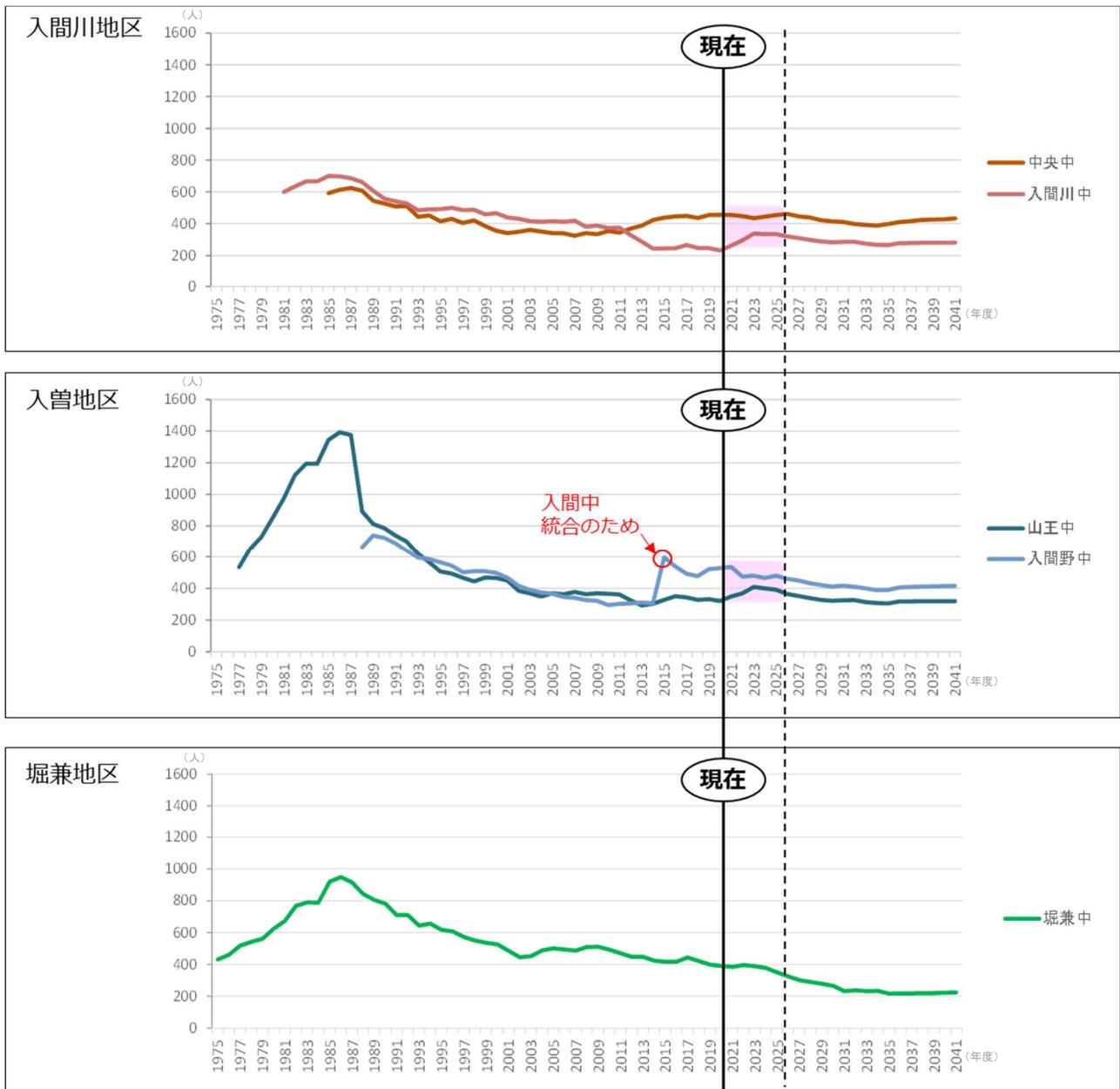
図表 小学校別児童数の推移②



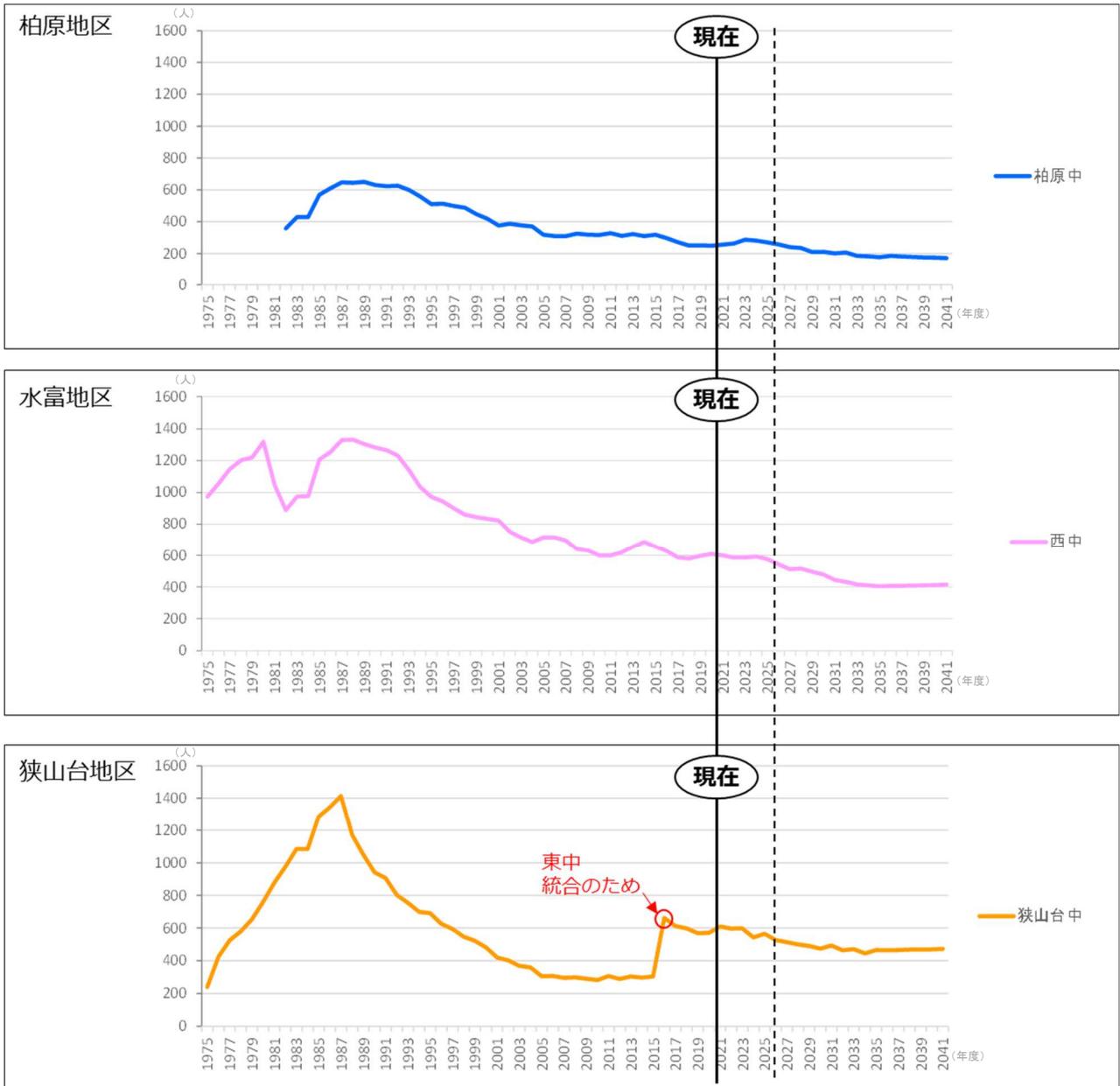
② 中学校

中学校も小学校と同様の傾向で、基本的に減少傾向で推移していますが、入間川中で微増予測となっています。

図表 中学校別生徒数の推移①



図表 中学校別生徒数の推移②

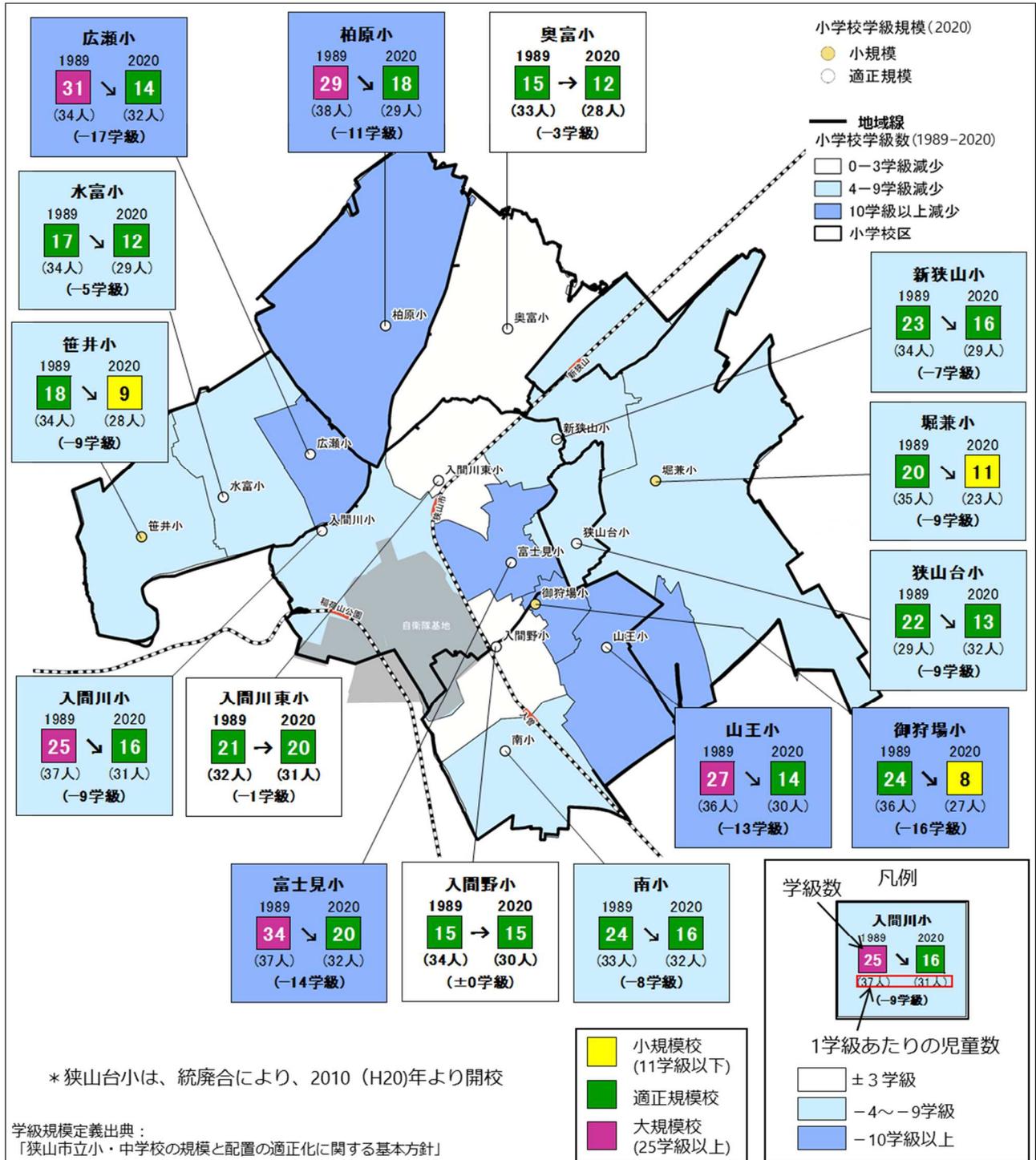


(3) 学校別学級数の変化

① 小学校

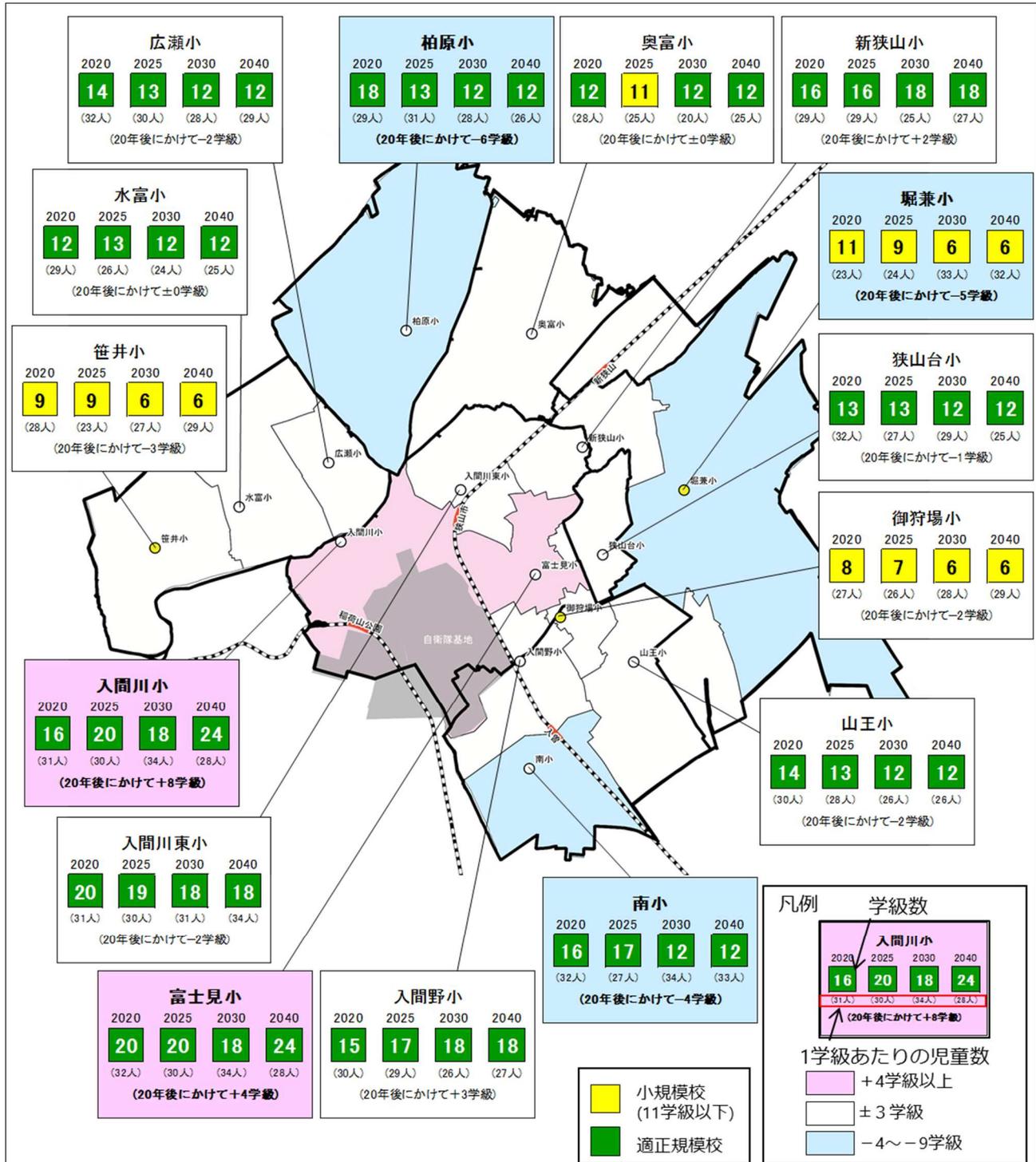
1989(平成元)年から2020(令和2)年まで約30年間の学級数の状況を学校別にみると、富士見小、山王小、御狩場小、柏原小、広瀬小では10学級以上大幅に減少しています。

図表 小学校 (1989(平成元)年から2020(令和2)年)



将来の学級数の変化を学校別にみると、南小、堀兼小、柏原小では4から6学級の減少が予測されており、すでに小規模校の学校でもさらなる減少予測となっています。

図表 小学校（2020（令和2）年⇒5年後⇒10年後⇒20年後）



※特別支援学級は除く

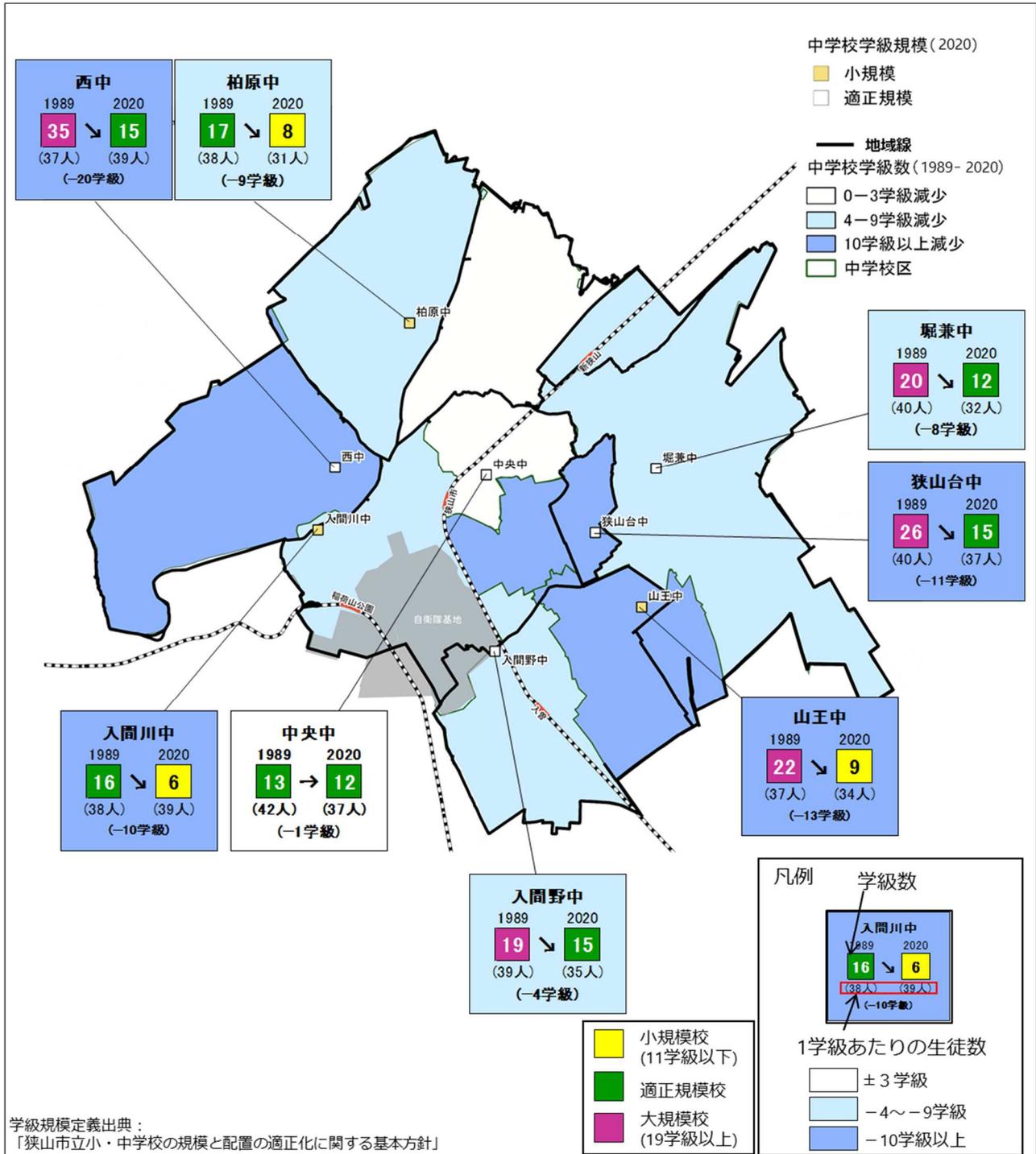
※各学校の通学区内の児童数を基に算出

※全学年、1学級35人で算出

② 中学校

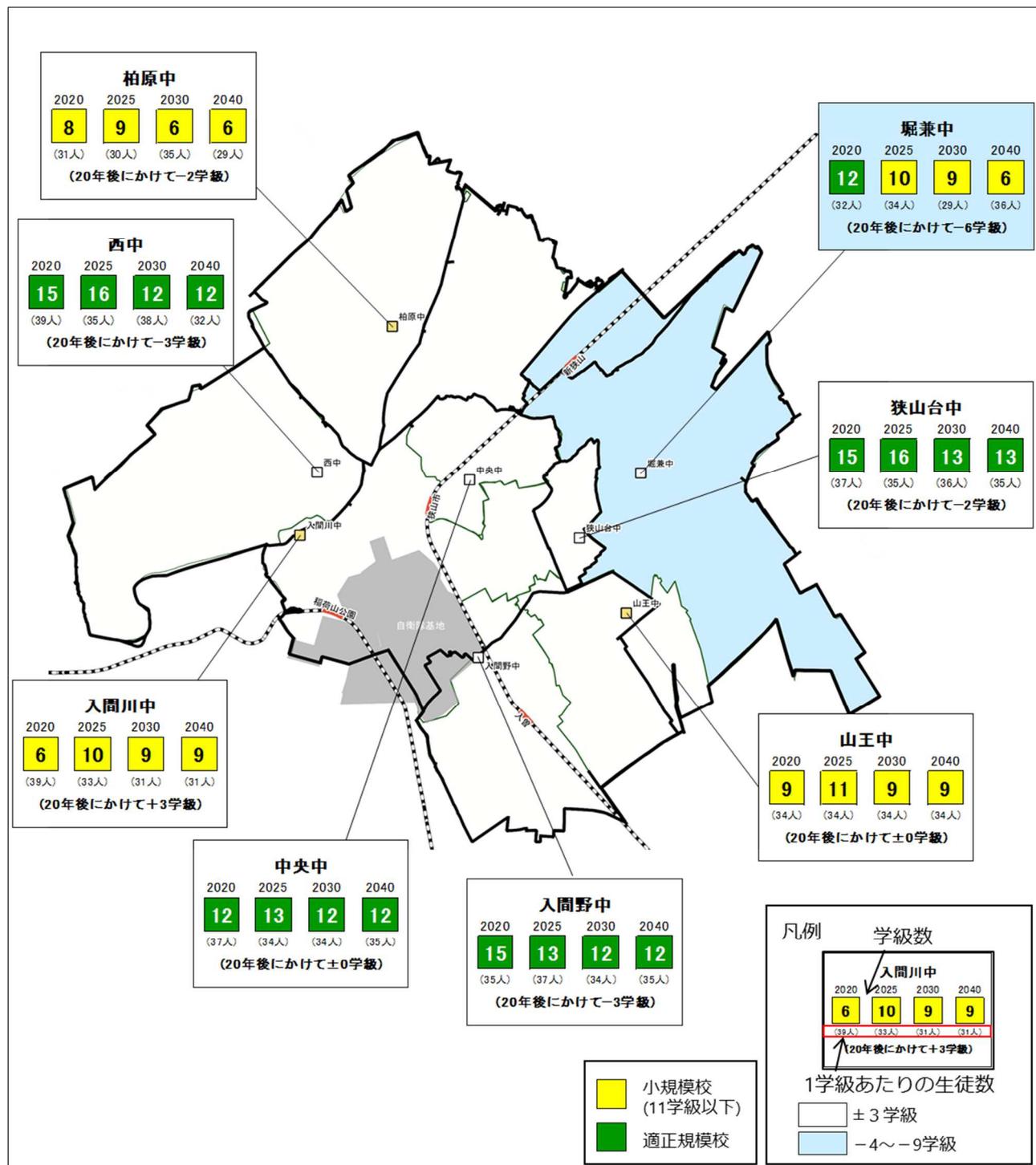
1989(平成元)年から2020(令和2)年まで約30年間の学級数の変化を学校別にみると、入間川中、山王中、狭山台中、西中では10学級以上大幅に減少しています。

図表 中学校 (1989(平成元)年から2020(令和2)年)



将来の学級数の変化を学校別にみると、堀兼中が6学級の減少が予測されていますが、小規模校の入間川中は3学級の増加で推移する予測となっています。

図表 中学校（2020（令和2）年⇒5年後⇒10年後⇒20年後）



※特別支援学級は除く

※各学校の通学区域内の生徒数を基に算出

※1年生は38人、2・3年生は40人で算出

2 学校の規模と配置の適正化の現状

本市では、少子化の進行等により児童・生徒数が減少している現状を踏まえ、学校規模の大小により生じる課題を解消し、子供たちのより良い教育環境を目指して、平成 19 年 9 月に「適正化基本方針」を策定し、平成 22 年度から平成 27 年度までに小学校 2 校、中学校 2 校の統廃合による小・中学校の規模と配置の適正化に取り組んできました。

子供たちの安心安全な学校生活を確保するため、老朽化する校舎等の建替えや長寿命化改修を計画的に推進していくには、「総合管理計画」の具体的な実施方針に基づき、小・中学校の規模と配置について適正化を図るなかで進めていくことが重要な課題となっています。そこで、平成 30 年 3 月に「適正化基本方針」を改定し、小・中学校の規模と配置の適正化を推進していくうえでの基本的な考え方とその進め方を取りまとめています。

(1) 学校の規模の適正な基準

小・中学校の適正規模については、これまでの「適正化基本方針」の考え方を尊重しつつ、国の標準規模を参酌し、さらに、適正規模を設定するにあたっての考え方の視点を踏まえて、次のとおり設定します。

■ 小学校は、全学年合計 12 学級～24 学級（各学年 2 学級～4 学級）

■ 中学校は、全学年合計 12 学級～18 学級（各学年 4 学級～6 学級）

(2) 小・中学校の規模と配置の適正化の方向性

■ 小学校

小学校の規模と配置の適正化については、小規模化による学習指導や学校運営上の課題を早期に解消させる観点から、入曽地区と水富地区の小規模校について検討を進めていきます。

まずは、既に 4 つの学年で単学級が生じている入曽地区の検討を進め、次に水富地区の検討を進めていきます。

■ 中学校

中学校の規模と配置の適正化については、適正規模を下回る学校はあるものの、おおむね全学年でのクラス替えができるなど、学校運営上の課題が生じるまでにはないことから、当面の間は、現行の規模の中で学校教育や学校運営の充実に取り組むものとし、引き続き、生徒数の推移や小規模化による集団教育活動への制約や学校運営上の課題が生じる可能性、あるいは、市全域の観点から学校間における生徒数の不均衡の状況を勘案して、学校の規模と配置の適正化について検討を続けるものとしします。

(3) 小・中学校の規模と配置の適正化に向けたシミュレーション

本市の児童・生徒数の予測と本市における小・中学校の適正規模をもとに、独自に適正化に向けたシミュレーションを行うと次のとおりです。

■ 小学校

● 2020(令和2)年度の地区別小学校数

地区名	入間川	入曽	堀兼	奥富	柏原	水富	新狭山	狭山台	合計
学校数	3	4	1	1	1	3	1	1	15

● 地区ごとの適正な小学校数

「適正化基本方針」と同様の算定式で地区ごとの適正な小学校数を試算すると、以下のとおりです。

2040(令和22)年度の各地区の児童数÷(小学校の適正規模学級数の中間である18学級×学級編成基準に基づく学級人数35人)

地区名	入間川	入曽	堀兼	奥富	柏原	水富	新狭山	狭山台	合計
適正数 (学校数)	3 (3.1)	2 (2.2)	1 (0.3)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (1.3)	1 (0.8)	1 (0.5)	11 (9.2)

堀兼地区、奥富地区、柏原地区、新狭山地区及び狭山台地区は、地区ごとの適正な小学校数が1校未満になる見込みです。小学校は各地区に最低1校は存続させるという考えですが、20年後を見据えると、市全体では「9校(小数点第1位以下を四捨五入)」が適正な小学校数ということになります。

■ 中学校

● 2020(令和2)年度の地区別中学校数

地区名	入間川	入曽	堀兼	奥富	柏原	水富	新狭山	狭山台	合計
学校数	2	2	1	入間川地区に含む	1	1	堀兼地区に含む	1	8

● 地区ごとの適正な中学校数

「適正化基本方針」と同様の算定式で地区ごとの適正な中学校数を試算すると、以下のとおりです。

2040(令和22)年度の各地区の生徒数÷(中学校の適正規模学級数の中間である15学級×学級編成基準に基づく学級の※平均人数39人) ※1年生は38人、2・3年生は40人で算出

地区名	入間川	入曽	堀兼	柏原	水富	狭山台	合計
適正数 (学校数)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (0.4)	1 (0.3)	1 (0.7)	1 (0.8)	6 (4.6)

堀兼地区、柏原地区、水富地区、狭山台地区は、地区ごとの適正な中学校数が1校未満になる見込みです。市全体では「5校(小数点第1位以下を四捨五入)」が適正な中学校数ということになります。

このような結果を見据えながら、今後40年間の学校施設のあり方についても即しながら整備を進める必要があります。

第4章 学校施設整備方針

1 学校施設の目指すべき姿

本市で策定した「第2次狭山市教育振興基本計画」における基本目標のひとつとして、「質が高く魅力ある教育環境の充実」が定められています。その実現のため、学校施設の実態や課題を踏まえ、本計画において、これから学校施設が目指すべき姿として、次の項目を考慮した学校施設整備の方針を定めます。

(1) 確かな学力の育成

子供たちが主体的、創造的に生き抜いていくためには、児童・生徒一人ひとりに基礎的・基本的な知識や技能の習得と、それらを活用していくために必要な思考力、判断力、行動力等が求められます。

一人ひとりの児童・生徒が基礎的な知識・技能を身に付け、「わかる喜び」、「学ぶ楽しさ」を実感できるよう、少人数指導などによる個に応じた効果的な指導の充実に取り組みます。

(2) 学校施設の充実

児童・生徒が安全で快適に学校生活を送ることができるように教育環境を充実させる必要があります。

また、学校 ICT の環境整備を図るとともに、情報ネットワークや教材ソフトなどを充実させて、ICT を活用した授業を行っていく必要があります。

そこで、学校施設につきましては、長寿命化を図るための改修工事を計画的に行います。

(3) 地域に開かれた学校づくりの推進

社会が大きく変化する中で、学校における教育活動は多岐にわたり、また、障害のある児童・生徒や外国人児童・生徒等への対応や貧困等に起因する学力課題の解消など、学校が直面する課題も様々です。また、児童・生徒の教育環境を充実させるためには、地域の住民等の協力を得ることが重要です。そのためには、教育に対する市民の関心と理解を一層深め、学校・家庭・地域の住民や企業・NPOなどが目標を共有し、社会全体で教育に取り組む必要があります。

2 学校施設整備方針

「総合管理計画」の施設類型別の具体的な実施方針では、以下の3つが掲げられています。

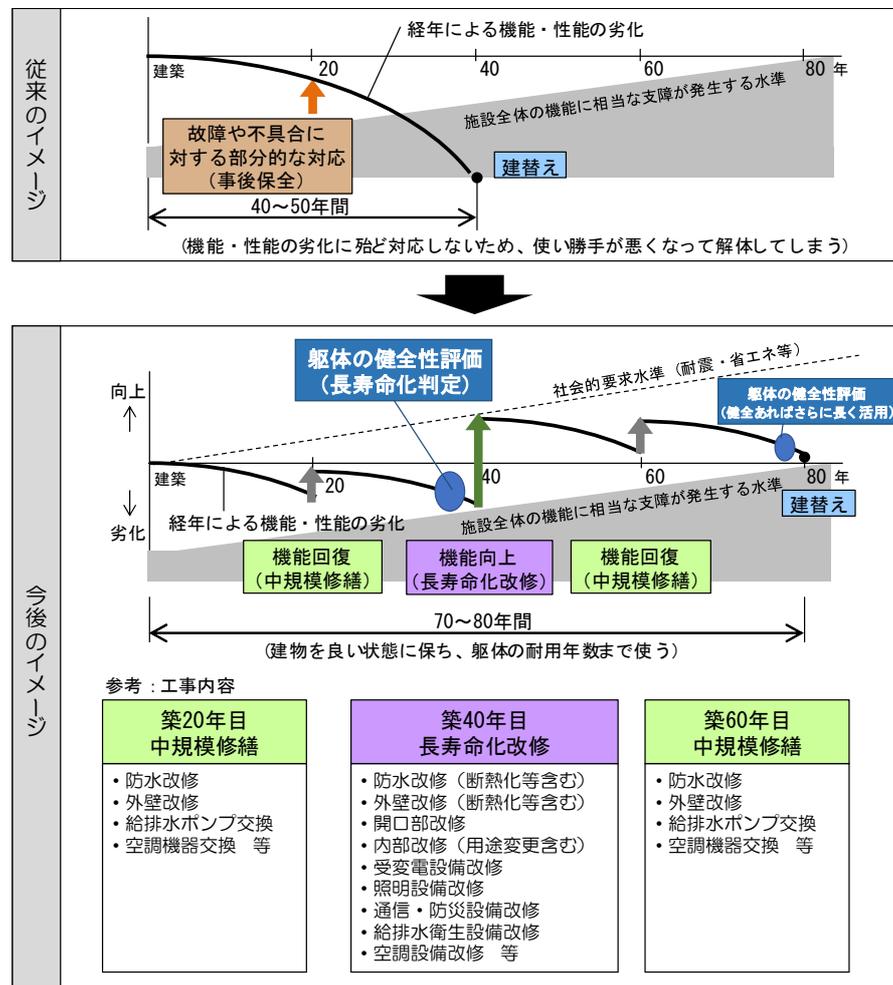
- 「狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」に基づいて、学校の統廃合を進めます。
- 将来も統廃合の予定が無く、かつ、老朽化の著しい小・中学校から順に、児童・生徒数に合わせた規模を見据え、地域の拠点施設としての活用も視野に入れた大規模改修または建替えを行います。
- 廃止した学校の建物は除却します。

これらを踏まえ、今後の学校施設整備は、次の4つの方針に基づき、具体的な取り組みを推進します。

(1) 建替え／長寿命化改修の併用による効率的な施設整備

本市の学校施設は、整備時期が集中しているため、一斉に更新時期を迎えます。限られた財政状況で、効率的に施設整備を実施するため、建物の目標使用年数を80年と設定し、下図のような長寿命化改修を行います。ただし、旧耐震基準で建てられた校舎の内、より基準の古い1971(昭和46)年以前に建てられたものは築後80年までの残りの使用年数が短く、費用対効果が見込めないことが予想されるため、長寿命化せず建替えで対応します。

図表 長寿命化型のイメージ



(2) 新たな学習形態への対応等教育環境の充実（バリアフリー化、多目的教室の整備等）

建替えや長寿命化改修時には、グループワークや調べ学習などアクティブ・ラーニング等の手法に対応した教育環境の整備や、少人数指導などによる個に応じた学習指導の充実のための整備など、新学習指導要領へ対応します。

また、エレベーターの設置や段差のある所でのスロープの設置等のバリアフリー化などインクルーシブ教育への対応を進め、教育環境の向上を目指します。

(3) 公民館機能、子育て支援機能等との複合化による地域の拠点化

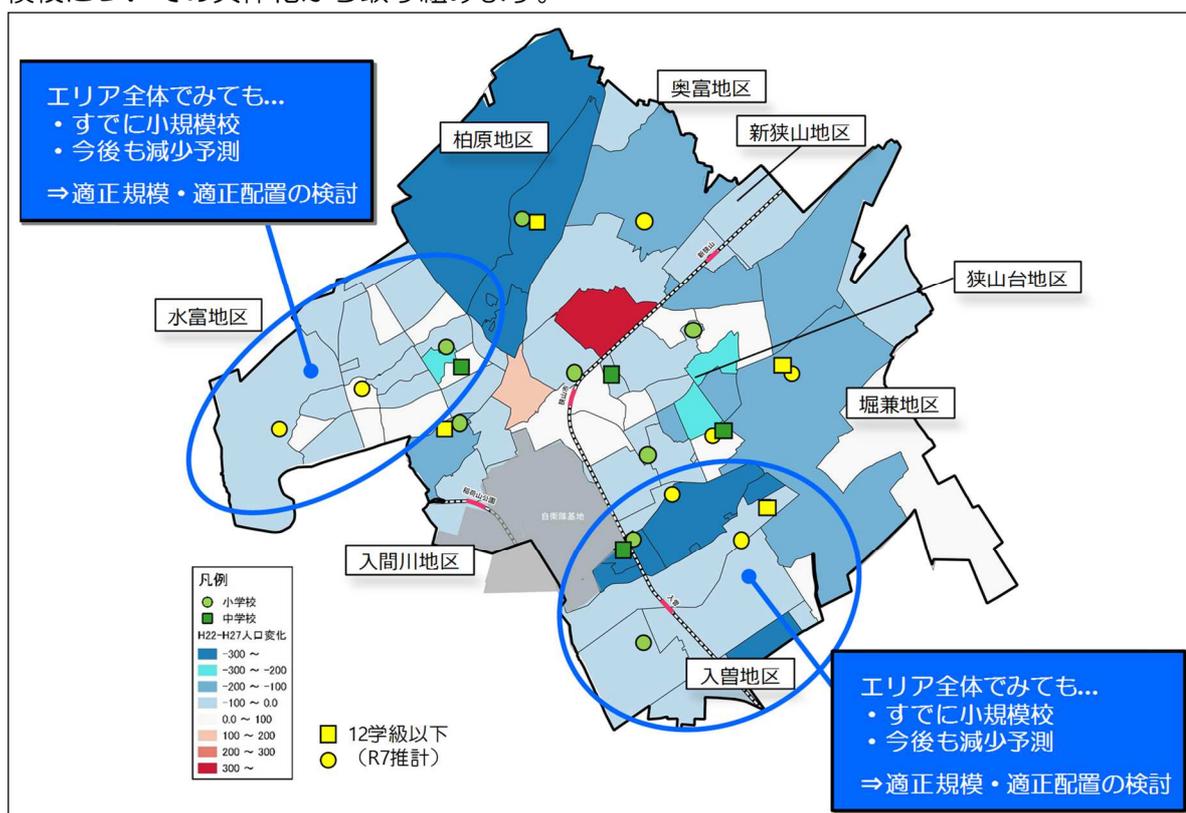
今後、校舎の建替えや長寿命化改修時には、「総合管理計画」で示されている地域の拠点施設としての活用も視野に入れ、公民館機能や子育て関連機能等との複合化・共用化について検討します。複合化及び共用化するにあたっては、セキュリティや明確な動線の区分など、学校側の負担にならない管理・運営に配慮します。

(4) 規模と配置の適正化と即した学校施設整備

児童・生徒数の予測なども含めて地域の実情に応じた学校施設のあり方を明確化します。

例えば、すでに余裕教室のある学校では、多目的室や少人数教室の設置など学校としての活用のほかに、余裕教室を他用途へ転用したり、あるいは減築を実施するなど、学校にあった対策を実施します。

また、小規模校化が進行する学校について、将来的には適正規模・適正配置による隣接校との集約化（統合）や小中一貫教育（義務教育学校の設置）など、学校規模や教育環境の適正化に向けた検討を優先的に進め、規模と配置の適正化に即した効率的な施設整備を行います。なお、適正化基本方針では、まず小学校の方向性として、入曽地区と水富地区の小規模校についての具体化から取り組みます。



3 施設整備の水準

学校の施設整備にあたっては、設定した改修メニューから算出した改修費用と市の財源を勘案した上で、改修内容を設定します。外部については屋上防水・外壁の改修などを行います。

内部については全体的な改修や給排水設備の更新も実施します。また、断熱化やLED照明など省エネルギー化、エレベーターやスロープの設置等などバリアフリー化を進め、学習環境の向上を図ります。

なお、施設整備内容は下図のとおり、I～Vの改修方式に分けて設定します。

図表 今後の整備レベル

☐ : 点線の改修は、状況により実施

工種	I	III	IV	V
	部位改修 (15年～20年周期)	中規模修繕 (大規模改造)	長寿命化改修	建替え
屋根 屋上	露出防水 (既存の上)	露出防水 (既存の上)	外断熱露出防水	外断熱露出防水
外壁	外壁塗装	外壁塗装	防水型複層塗材	防水型複層塗材
主要な 設備機器 の更新	主要設備機器の更新 (受変電設備・高架水槽 ・空調機・プールろ過機)	主要設備機器の更新 (受変電設備・高架水槽 ・空調機・プールろ過機)	主要設備機器の更新 (受変電設備・高架水槽 ・空調機・プールろ過機) 配線・配管の更新	受変電設備・高架水槽 ・空調機・昇降機・ LED照明
機能回復		劣化部位全体の修繕	劣化部位全体の修繕 躯体補修 (ひびの補修等)	
外部 開口部		シーリング打替え 開閉調整程度	サッシ交換 複層ガラス (断熱窓・強化ガラス)	複層ガラス (断熱窓・強化ガラス)
内部	II 単独改修 (機能向上)	一部の内壁・天井の修繕	教室 床:フローリングブロック (下地共) 壁:EP塗装 間仕切り:アルミパーティション 天井:LGSS(耐震)下地PB その他:実験台、ロッカ、黒板 等の更新 廊下:天井・床・壁の改修 照明:LED化	教室 床:フローリングブロックt15、 壁:EP塗装 間仕切り:アルミパーティション 天井:LGSS(耐震)下地PB その他:実験台、ロッカ、黒板 等 廊下:ビニール床シート 照明:LED
機能向上	トイレ 空調 昇降機	トイレドライ化 洋式便器(節水型) 昇降機設置	トイレドライ化 洋式便器(節水型) 昇降機設置 断熱化 諸室の見直し 省エネルギー化 バリアフリー 多目的トイレ 内部木質化(一部) 設備システムの更新	ドライ式トイレ 洋式便器(節水型) 断熱化 バリアフリー 省エネルギー化 オストメイト対応トイレ 小人数教室等の設置 内部木質化(一部)
コスト の目安	校舎 状況による	82,000円/㎡	180,000円/㎡	330,000円/㎡

※上記のコスト目安は、総合管理計画の設定単価を基準とし、単価上昇分を加味して設定したものです。ただし、空調設備工事のコストは1校あたり平均3億2,500万円別途加えることになります。

第5章 学校施設長寿命化計画

1 整備方式の考え方

(1) 整備方式の決定

ア 校舎

(7) 整備方式の設定

校舎については建替えと長寿命化の方向性に基づき、学校単位で次の整備方式を設定しました。

整備方式	施設の状況	整備内容
建替え型	全ての棟が1971（昭和46）年以前の学校	建替え
長寿命化型	全ての棟が1972（昭和47）年以降の学校	長寿命化改修
建替え・長寿命化併用型	建替え型と長寿命化が同居する学校	1971年は建替え 1972年以降は長寿命化改修
中規模改修型	新耐震基準の棟で、劣化が著しい学校	長寿命化改修まで期間があるため、中規模修繕を実施
部位改修	10年間に建替え・改修の無い建物の屋根・屋上及び外壁の劣化が進行している棟の部分改修	建替え・長寿命化改修までの安全を図るための部位改修を実施

(4) 対象校（整備方式別）

(7)の整備方式に基づいた場合、対象校は以下のとおりとなります。

整備方式	学校名	
	小学校	中学校
建替え型	入間川東小、水富小	-
長寿命化型	入間川小、富士見小、山王小、入間野小、狭山台小、新狭山小、広瀬小、笹井小	入間川中、山王中、狭山台中
建替え・長寿命化併用型	南小、堀兼小、奥富小、柏原小	堀兼中、西中
中規模改修型	御狩場小	中央中、入間野中、柏原中

小・中学校の規模と配置の適正化に向けた検討結果によっては、整備方式、整備内容及び整備スケジュールを見直すものとします。

(ウ) 整備内容

建物を 80 年まで長期にわたって活用するため、各部位の耐用年数を考慮し、20 年周期でまとまった工事を行うこととします。長寿命化改修は 80 年の中間年にあたる築 40 年頃に行う工事で、機能回復に加え、学習環境やバリアフリー、防災面（避難所機能）等と内部改修を含めた機能向上を図ります。

長寿命化改修	中規模修繕
以下の内容で機能回復、機能向上を実施。 1 屋上防水改修 2 外壁改修（躯体補修を含む） 3 内装改修（床・壁・天井、黒板等） 4 設備機器の更新、配管の更新 5 電気設備の更新、配線の更新 教室配置の変更、増築・減築、複合化・共用化などの検討を行い実施。	以下の内容で機能回復を実施。 1 屋上防水改修 2 外壁改修 3 内装改修（床） 4 設備機器の更新 5 給水配管の更新（受水槽の 2 次側）

イ 体育館等（体育館・武道場）

(7) 整備方式の設定

体育館等については建替えと長寿命化の方向性に基づき、学校単位で次の整備方式を設定しました。

整備方式	施設の状況	整備内容
建替え型	全ての棟が 1971 年（昭和 46 年）以前の学校	建替え
長寿命化型	全ての棟が 1972 年（昭和 47 年）以降の学校	長寿命化改修
建替え・長寿命化併用型	建替え型と長寿命化が同居する学校	1971 年は建替え 1972 年以降は長寿命化改修
中規模改修型	新耐震基準の棟で、劣化が著しい学校	長寿命化改修まで期間があるため、中規模修繕を実施
部位改修	10 年間に建替え・改修の無い建物の屋根・屋上及び外壁の劣化が進行している棟の部分改修	建替え・長寿命化改修までの安全を図るための部位改修を実施
現状維持	大規模改修済みで比較的良好な棟	10 年間は工事なし

(イ) 対象校（整備方式別）

(7)の整備方式に基づいた場合、対象校は以下のとおりとなります。

整備方式	学校名	
	小学校	中学校
建替え型	-	-
長寿命化型	入間川小、南小、山王小、御狩場小、狭山台小、水富小、笹井小	中央中、入間川中（柔剣道場）、山王中（柔剣道場）、入間野中、狭山台中、西中、柏原中
建替え・長寿命化併用型	-	堀兼中（体育館建替え、柔剣道場長寿命化）
中規模改修型	-	-
現状維持	入間川東小、富士見小、入間野小、堀兼小、新狭山小、奥富小、柏原小、広瀬小	入間川中（体育館）、山王中（体育館）

小・中学校の規模と配置の適正化に向けた検討結果によっては、整備方式、整備内容及び整備スケジュールを見直すものとします。

(ウ) 整備内容

建物を 80 年まで長期にわたって活用するため、各部位の耐用年数を考慮し、20 年周期でまとまった工事を行うこととします。長寿命化改修は 80 年の中間年にあたる築 40 年頃に行う工事で、機能回復に加え、バリアフリー、防災面（避難所機能）等と内部改修を含めた機能向上を図ります。

長寿命化改修	中規模修繕
<p>以下の内容で機能回復、機能向上を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 屋上防水改修 2 外壁改修（躯体補修を含む） 3 内装改修（床・壁・天井、体育器具等） 4 設備機器の更新、配管の更新 5 電気設備の更新（LED化）、配線の更新 	<p>以下の内容で機能回復を実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 屋上防水改修 2 外壁改修 3 内装改修（床） 4 設備機器の更新 5 給水配管の更新（受水槽の2次側）

ウ その他

2022(令和 4)年度までに各校 1 系統のトイレの洋式化改修を推し進め、長寿命化改修時には全て完了させます。

また、受変電設備、受水槽設備は老朽化にあわせ更新します。

2 整備スケジュール（第1期）

今後10年間の計画は、予算の縮減・平準化と効率的な施設整備を両立するため、老朽化状況を踏まえ優先順位を設定し整備を行うこととし、建替え・長寿命化改修を併用する2校、長寿命化改修を1校、これまで改修を行ってこなかった築30年以上の学校3校の中規模修繕を実施します。これ以外の学校では、CD評価のある建物の部位改修により、D評価部位を解消します。また、各校1系統のトイレ洋式化（ドライ化）整備等を完了します。

今後10年間の対応			
建替えを要する棟	柏原小学校・西中学校 1971年以前の棟 2校 4棟 0.7万㎡	2校実施	20.7億円
長寿命化改修を要する棟	山王小学校・柏原小学校・西中学校 3校 8棟 1.4万㎡	3校実施	22.9億円
中規模修繕	中央中学校・入間野中学校・柏原中学校 3校 4棟 1.6万㎡	3校実施	12.9億円
部位改修	屋根・屋上等のC・D評価 21棟 3.6万㎡	2023年～2026年に実施、若しくは上記工事と同時に実施	11.5億円
(機能向上)トイレ改修	トイレ洋式化改修 8校	各校1系統と職員トイレ	5.6億円
空調工事(防衛省)	防衛省補助金活用による空調工事	校舎:3億2,500万円	22.8億円
その他工事	上記以外の改修工事(グラウンド、プール等)	1億6,200万円/年(2022年以降)	15.6億円
			112億円

具体的には、「対象校（整備方式別）」により、以下の考え方に基づき第1期の候補を選定しました。

「建替え」の対象となる棟を保有する学校については、市内で最も古い築後59年の棟が2棟、築54年の棟が1棟あり、内部の劣化状況がD評価であることから西中学校を、また、築後55年以上経過している棟を保有する学校の中でも屋根・屋上、外壁がD評価で、健全度も一番低い棟があることから柏原小学校をそれぞれ候補としたものであり、これらの棟は、築後80年間活用するには、残りの年数が短いため、「建替え」の対象とし、残りの棟の長寿命化改修を併用して行うこととしたものです。

「長寿命化改修」の対象となる棟を保有する学校については、上述した2校のほかに長寿命化改修の対象となる棟がD評価で健全度が最も低い棟を保有する山王小学校を候補としたものであり、劣化した箇所の部分的な改修では、築後80年間の維持が難しいため、長寿命化改修を行い、諸室配置の見直しや機能向上も併せて改修を行う計画としています。

ただし、今後、小規模校化が進んだ場合には、長寿命化改修を行う予定の棟を減築したり、あるいは将来的に適正化を行う際には、必要規模で建替えて集約を行うなどの将来の可能性を見据えて、工事実施段階には最終的な改修内容等を決定します。

中規模修繕予定の中央中学校、入間野中学校及び柏原中学校の3校は、いずれも新耐震基準の建物ですが、建設以降大規模な修繕等を行っていないため、屋根・屋上及び外壁といった重要部位にD評価が見られ劣化が深刻な状況です。そのため、早期に修繕を行い劣化状況の改善を図ります。

屋根・屋上等のC・D判定箇所につきましては、2026(令和8)年度までに随時改修を行い、現在進めているトイレ洋式化（ドライ化）整備は引き続き優先的に進めていきます。併せて、エアコンの更新工事を計画的に行い、教育環境の改善に努めていきます。

これらの工事は、国庫補助金等を活用し、効果的・効率的に実施します。

3 長期の整備費用

(1) 23校を今後も維持した場合（図表1）

前述した各施設の整備の方向性に基づき、整備費用の想定を行いました。老朽化状況、棟の経年および、各棟の面積を勘案し、各施設の整備時期を振り分けています。

結果は、10年間総額 112 億円・年平均 11.2 億円となり、当面の10年間においては直近10年の実績値 7.1 億円 1.6 倍の差となっています。

しかし、40年間総額では 790 億円・年平均 19.8 億円となり、直近10年の実績値 7.1 億円と約 2.8 倍のかい離となっており、長寿命化や効率的な整備等、施設面の工夫だけでは将来的に財政とのギャップを埋めることが困難であることがわかります。

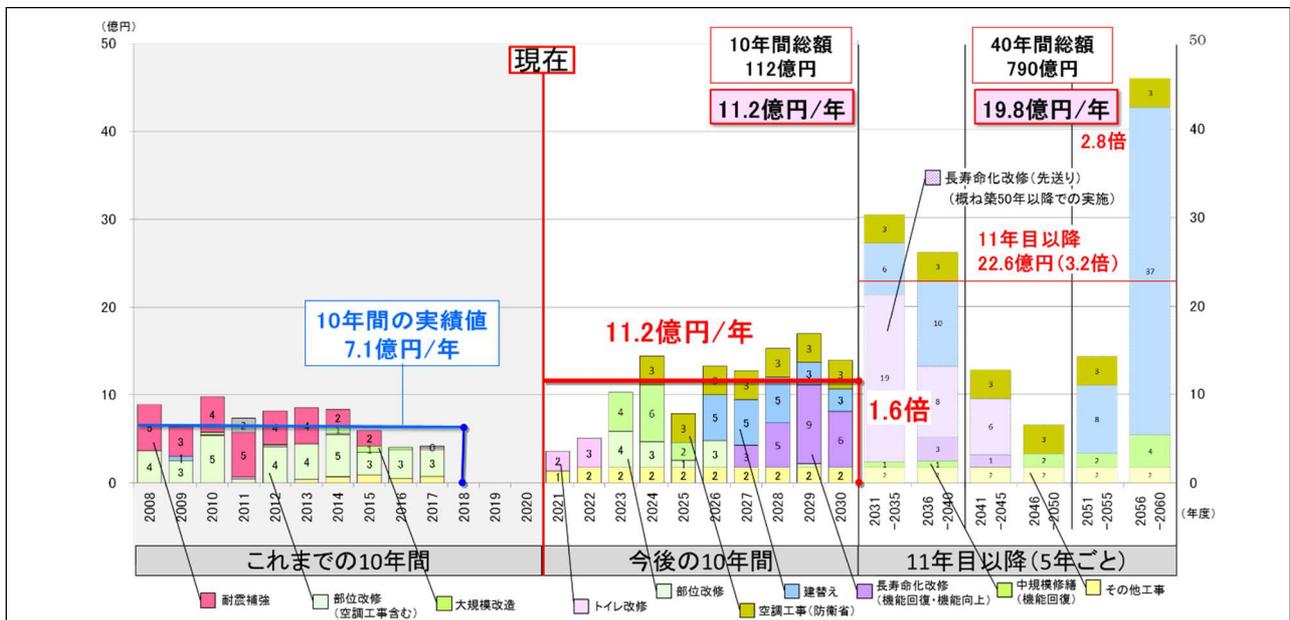
(2) 規模と配置の適正化を実施した場合のモデルシミュレーション（図表2）

入曽地区と水富地区の適正化を実行した場合のモデルシミュレーションを行いました。入曽地区の小学校を4校から3校に、水富地区の小学校を3校から2校にした場合、40年間総額では 782 億円・年平均 19.6 億円となり、「(1) 23校を今後も維持した場合」の費用より、多少のコスト削減効果が見られますが、2056年～2060年には建替えの更新時期が一斉に訪れるため、40年間総額では、ほとんどコスト削減効果が見られません。

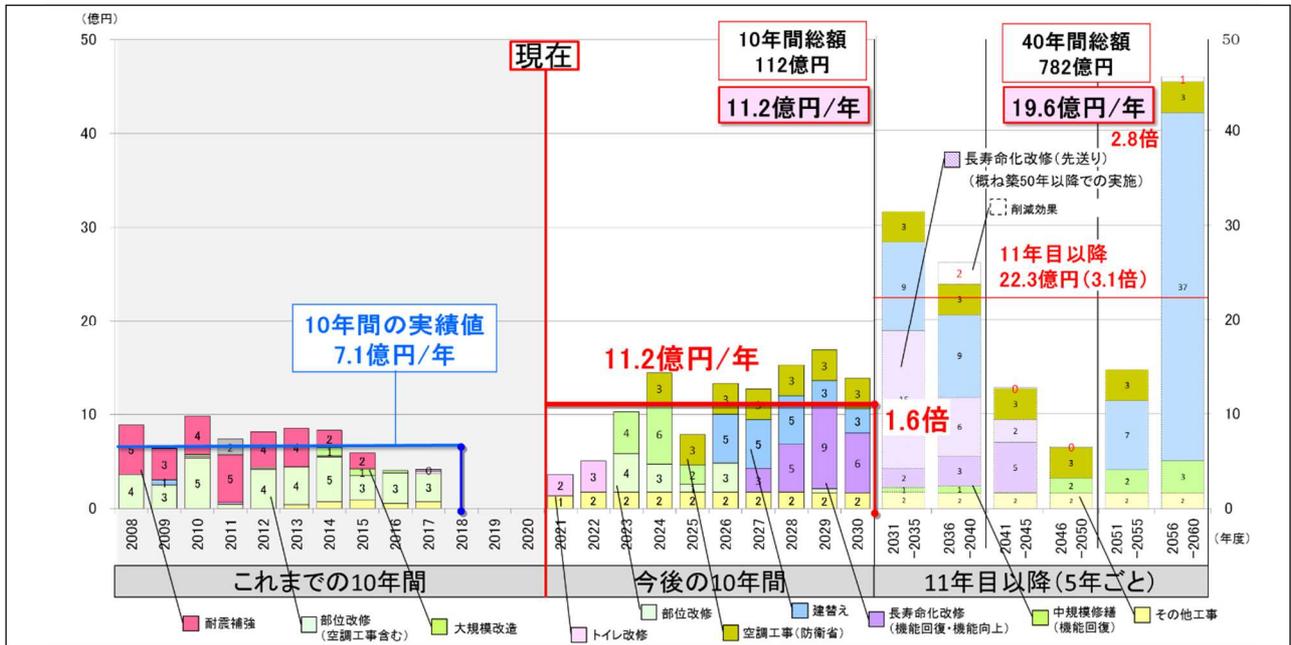
(3) 「総合管理計画」の方針を反映した場合のモデルシミュレーション（図表3）

そこで、さらに平成28年度に策定した「総合管理計画」の公共施設の施設総量30%削減を目指すよう、今後10年間の計画に入っていない学校で、健全度の低い小学校を6校、中学校を2校削減した場合、40年間総額では 592 億円・年平均 14.9 億円となり、「(1) 23校を今後も維持した場合」の費用より約25%のコスト削減（面積では約30%相当）が可能となります。また、コスト削減だけでなく、統合校では建替えや長寿命化改修等の整備が実施されるため、教育環境・生活環境の向上も図ることができます。

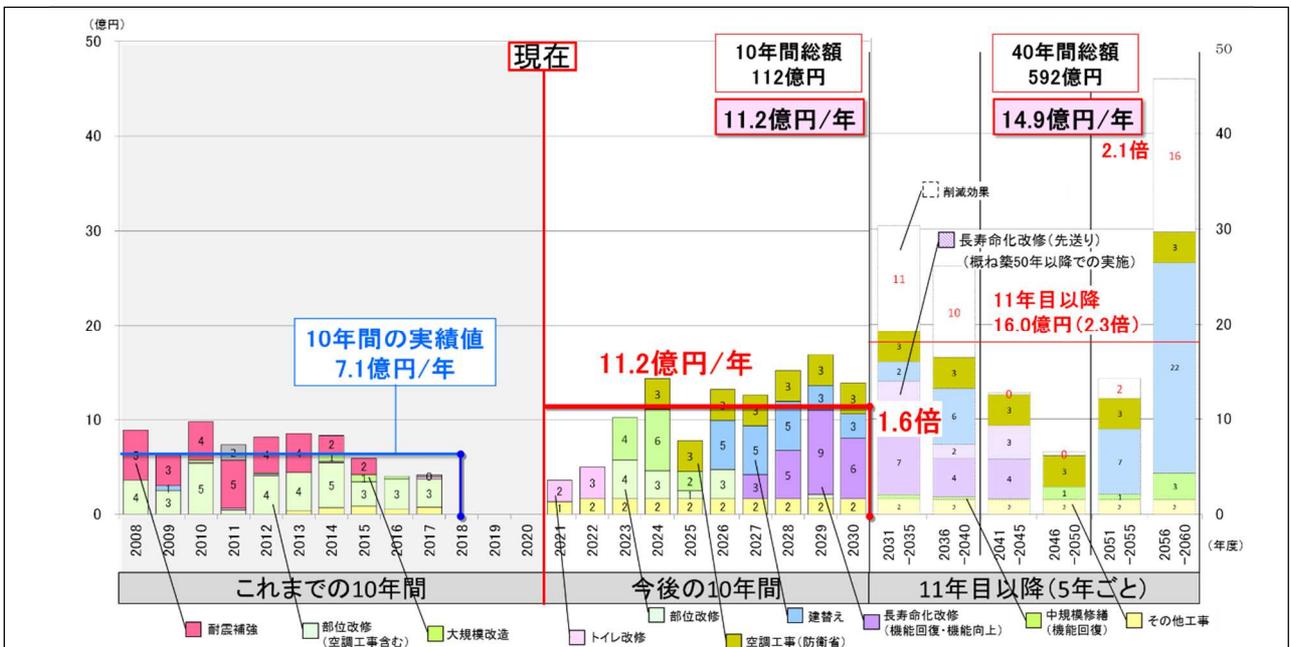
図表1 23校を今後も維持した場合の整備費用



図表2 規模と配置の適正化を実施した場合の整備費用



図表3 「総合管理計画」の方針を反映した場合の整備費用



第6章 計画の実行に向けて ～管理・運営面を含めたさらなる改善～

「第5章 学校施設長寿命化計画」において、今後40年の長期の整備費用を示しましたが、限りある予算の中で着実に計画を実行していくためには、さらなる経費縮減が必要となります。

また、市全体で見ても、「総合管理計画」によると本市の保有する公共施設のうち、学校施設が約49%を占めており、「総合管理計画」では今後40年間で施設総量（延床面積）の30%の削減を目標としています。数値目標を達成するためにも、規模と配置の適正化に即して、今後は、新しい運営のあり方として、学校プールの複数校での共用化や、周辺公共施設との複合化・集約化など、あらゆる方策の中からできることを実施していくことで、さらなる改善を図っていく必要があります。

図表 長寿命化計画と連動して推進すべき改善方策メニュー例

施設単体での改善	① 諸室の見直しによる機能向上
	② 教育環境・生活環境の向上
複合化・再編 (地域単位)	③ 学校施設と他の地域機能の集約化・複合化
	④ 広域対応施設との複合化、共用化
	⑤ 適正規模・適正配置と連動した改善
施設活用面	⑥ 学校施設の時間外活用（グラウンド・体育館等）
	⑦ プールの共用化
管理・運営面	⑧ 民間活力の導入・運営等の見直し
	⑨ 公共建物・インフラ等の包括的管理委託等横断的な維持管理、運営の見直し

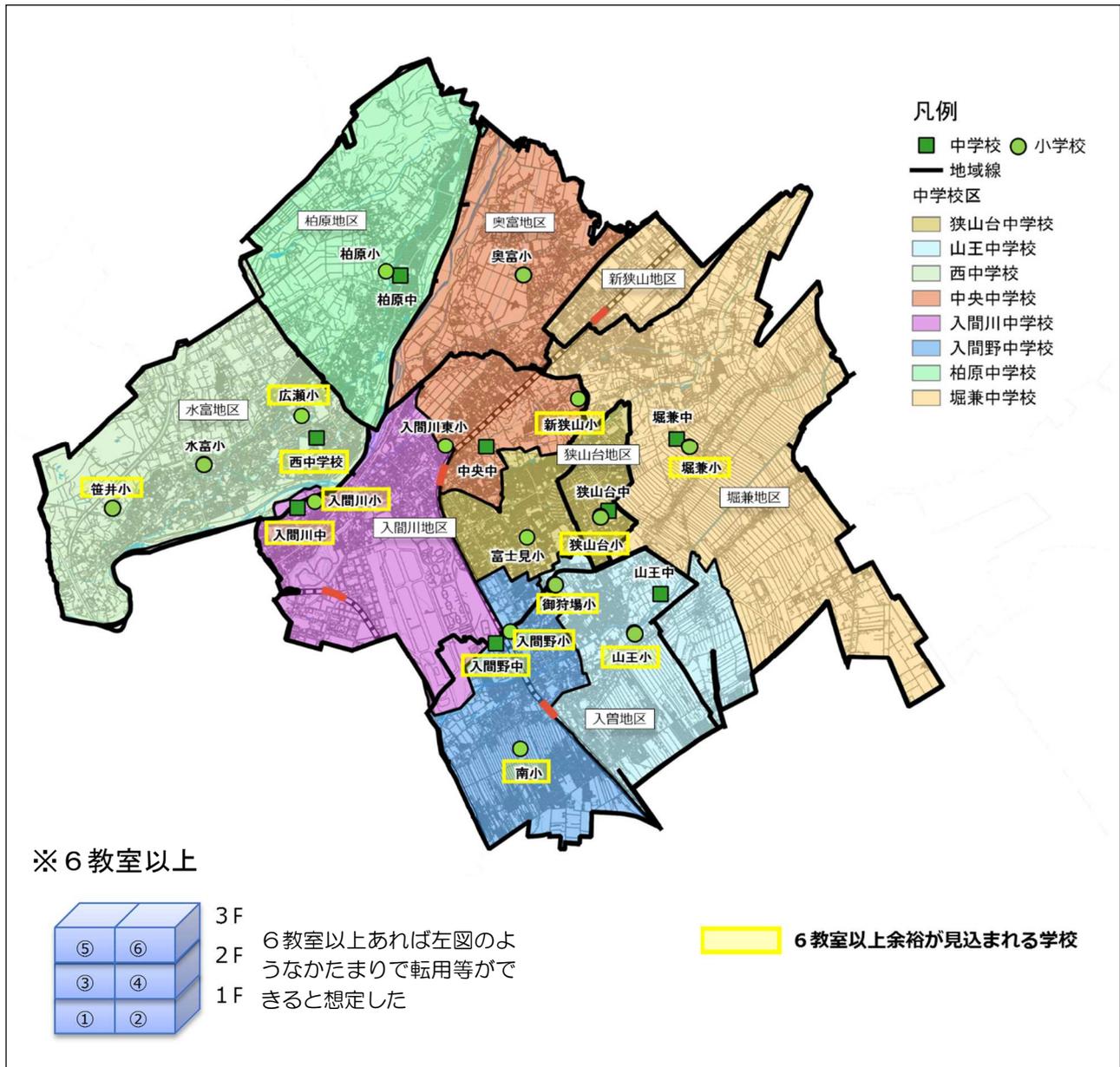


参考 余裕教室の活用検討

「第3章 1-(3) 学級数の変化」で把握したように、学校によっては10学級以上減少している学校もあります。そこで、2019(令和元)年度の各学校の教室活用状況を整理しました。

普通教室・特別支援教室・特別教室・管理諸室以外で活用されている諸室数を確認したところ、現状ですでに*6教室以上保有している学校が小学校で10校、中学校で3校、合計13校ありました。学校として普通教室・特別支援教室・特別教室・管理諸室以外に保有すべき諸室の狭山市としての基準を設定するとともに、今後の児童・生徒数の減少も踏まえて、建替えや長寿命化改修の際に、余裕教室の他の用途への転用などを検討する必要があります。

図表 6教室以上余裕が見込まれる学校

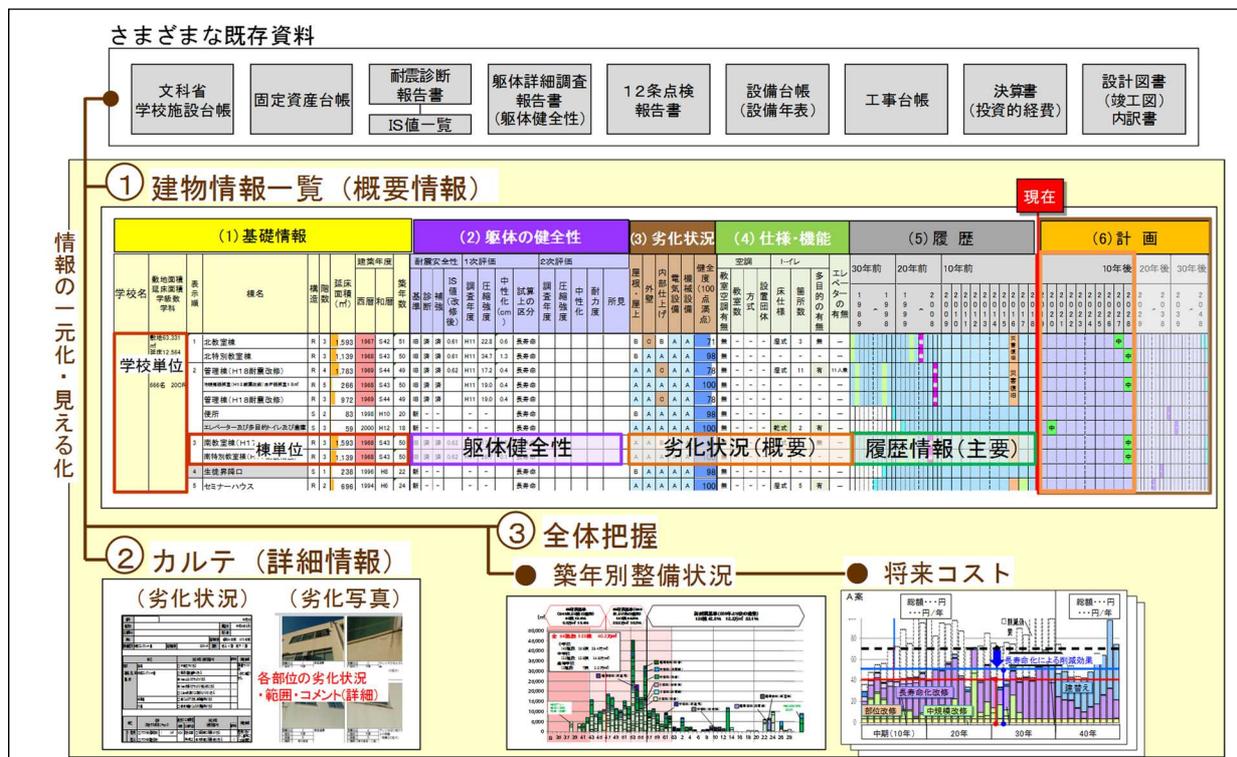


第7章 計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

現在ある学校施設の維持管理に関するさまざまな情報を、今後は本計画で作成した「建物情報一覧」に蓄積し、本計画の見直しや学校施設全体のマネジメントに活用します。その際、建築基準法12条の定期点検と併せた劣化状況調査を3年に1度確実に実施し、劣化状況評価を見直すとともに、修繕・改修履歴などの情報なども集約することで、常に最新の建物情報を確認することができ、変化に応じた柔軟な対応につなげていきます。

図表 情報の一元化イメージ図



2 推進体制等の整備

本計画は、学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進していきますが、本市では、「公共施設白書」「総合管理計画」「再編計画」等を作成し、全庁で公共施設マネジメントを推進しています。そのため、全市的な視点から、他の施設と複合化を検討する場合など、より有効な活用ができるように関連部署と連携・協力して計画を推進します。

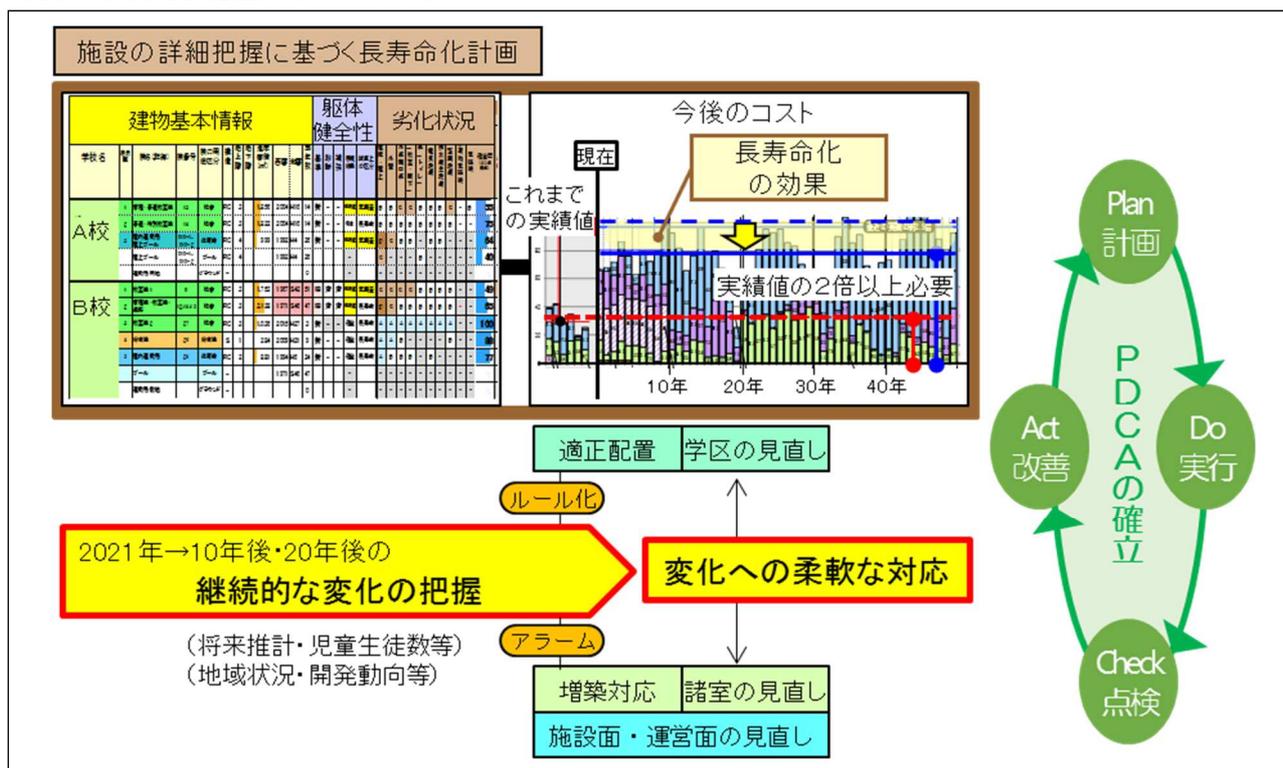
3 関連計画との調整

本計画により、学校施設の長寿命化を進めるにあたっては、規模と配置の適正化に関する基本方針や総合管理計画との整合を図るなかで、使用しなくなることが見込まれる学校施設については、計画の先送りや計画から除く等、規模と配置の適正化の進捗を見据えて調整を行うことや、周辺の他の公共施設との複合化を検討するなど、複数の所管部署と連携するとともに、他の関連計画との調整を図りながら進めていきます。

4 フォローアップ

本計画は、現状の学校施設の劣化状況を踏まえ、改修や建替えの優先順位を設定して、標準的な長期の整備費用を算出しました。今後 40 年の長期にわたる取り組みとなるため、規模と配置の適正化の進捗はもちろん、学校教育を取り巻く環境の変化や、児童・生徒数の動向など将来変化を反映して、各期については5年経過時点で見直しを行います。さらに、各期の進捗状況などの検証を行いながら、10年ごとに全体の計画の見直しを図ります。

図表 継続的な見直しイメージ図



參考資料

参考資料 建物情報一覧表

建物情報一覧表は、施設の状況を把握するため、様々な情報を一元化したものです。

1. 建物基本情報

建物基本情報										
施設番号	① 施設名	地域	② 棟番号	棟名	構造	階数	③ 地上階 延床面積 (㎡)	④ 建築年度		築年数
								西暦	和暦	
0711	入間川小学校 8,657㎡	入間川	①	北校舎	RC	3	4,526	1999	H11	18
			⑩	南校舎	RC	2	2,936	1999	H11	18
				講堂	RC	2	1,195	1999	H11	18
				プール				1999	H11	18

① 施設名

	小学校
	中学校

② 棟名（建物用途）

	校舎、渡り廊下
	体育館、講堂
	武道場
	プール

③ 建築年度

	1971年以前の建物
	1972～1981年の建物
	1982年以降の建物

④ 築年数

	50年以上の建物
	30年以上の建物
	30年未満の建物

2. 構造躯体の健全性

構造躯体の健全性					
耐震安全性		長寿命化判定(簡易)			
基準	①		調査年度	② 圧縮強度 (N/mm ²)	③ 判定
	診断	補強			
新	-	-	2007	36.1	長寿命
新	-	-	-	36.1	長寿命
新	-	-	-	36.1	長寿命

① 耐震安全性

基準	旧	旧耐震基準（1981（S56）年以前の法改正前の建物）
	新	※新耐震基準（1982（S57）年以降の法改正後の建物）
診断	済	耐震診断実施済み（※未実施建物はない）
	不要	診断不要
補強	済	耐震補強工事実施済み（※未実施建物はない）
	不要	耐震補強不要

※1981年以前に新耐震基準と同等の設計をした建物は新耐震基準

② 圧縮強度

	コンクリート圧縮強度 13.5N/mm ² 以下
--	-------------------------------------

③ 判定

判定	長寿命化	長寿命化が可能
	要調査	長寿命化に不適

3. 躯体以外の劣化状況

躯体以外の劣化状況評価									
棟 ①								共用	
屋根・屋上	外壁	内部	電気設備	給排水設備	冷暖房設備	昇降機設備	健全度 (100点満点)	ブール	外構
A	C	B	B	A	B	B	69	-	A
A	C	B	B	A	B	-	69	-	
C	C	B	A	A	B	-	67	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	A	

① 評価基準

基準	
A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合の兆し）
D	早急に対応する必要がある

② 健全度

健全度とは、各建物の部位の劣化状況評価を 100 点満点で数値化した評価指標です。健全度は以下の算定式で求めます。

健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

健全度の算定式

$$\text{総和（部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分）} \div 60 \text{（コスト配分の総計）}$$

部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	3.6
6 冷暖房設備	3.0
7 昇降機	0.7

コスト配分は、文部科学省の「長寿命化事業」の校舎の改修比率算定表を参考に設定

4. 教育環境

学習環境	
① (トイレ)	② バリアフリー
Ⅲ	Ⅳ
Ⅲ	Ⅳ
Ⅲ	Ⅳ

① トイレ（ドライ化）

I	未対応
II	一部洋式化
III	ドライ化対応済

② バリアフリー（車椅子の対応）

I	未対応
II	1階にアクセス可
III	部分的にアクセス不可
IV	各フロアにアクセス可能

建物基本情報											構造躯体の健全性					躯体以外の劣化状況評価							共用		
施設名	地域	棟番号	棟名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度			耐震安全性					棟							健全度 (100点満点)	プール	外構	
							西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	判定	屋根・屋上	外壁	内部	電気設備	給排水設備	冷暖房設備				昇降機設備
入間川小学校 8,657㎡	入間川	①	北校舎	RC	3	4,526	1999	H11	21	新	-	-	2007	36.1	長寿命	A	C	B	B	A	B	B	69	-	A
		⑩	南校舎	RC	2	2,936	1999	H11	21	新	-	-	-	36.1	長寿命	A	C	B	B	A	B	-	69	-	
			講堂	RC	2	1,195	1999	H11	21	新	-	-	-	36.1	長寿命	C	C	B	A	A	B	-	67	-	
			プール				1999	H11	21							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
入間川東小学校 6,482㎡	入間川	①-1・2	北校舎	RC	3	3,072	1969	S44	51	旧	済	済	2017	20.4	長寿命	B	C	C	C	C	B	C	45	-	D
		⑩-1・2・3	南校舎	RC	3	2,493	1970	S45	50	旧	済	済	2000	23.7	長寿命	C	C	C	C	C	B	-	42	-	
			体育館	S	2	917	1974	S49	46	旧	済	済	-	-	長寿命	B	A	A	B	A	-	-	94	-	
			プール				1970	S45	50							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富士見小学校 7,122㎡	入間川	⑰	北校舎	RC	3	1,844	1973	S48	47	旧	済	済	2001	32.6	長寿命	C	B	C	C	C	A	C	53	-	C
		①	中央校舎	RC	3	1,701	1973	S48	47	旧	済	済	2001	38.0	長寿命	C	B	B	C	C	A	-	66	-	
		⑩	南校舎	RC	2	1,578	1973	S48	47	旧	済	-	2017	31.4	長寿命	C	B	C	C	C	A	-	53	-	
		⑫-1・2、⑰	南側新校舎	RC	2	1,081	1976	S51	44	旧	済	-	2001	31.5	長寿命	B	B	C	C	C	A	-	56	-	
			体育館	S	2	918	1974	S49	46	旧	済	済	-	-	長寿命	B	A	A	B	A	-	-	94	-	
	プール				1973	S48	47							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	
南小学校 8,094㎡	入管	⑮	南校舎	RC	4	2,280	1970	S45	50	旧	済	済	2017	20.7	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	B
		①-1・2	渡り廊下	RC	4	481	1970	S45	50	旧	済	済	1999	21.4	長寿命	B	B	C	C	C	A	-	56	-	
		⑩-1・2	北校舎	RC	4	2,709	1970	S45	50	旧	済	済	2017	20.7	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	
		⑰	南側新校舎	RC	4	381	1974	S49	46	旧	済	-	2000	23.7	長寿命	A	A	C	C	C	A	-	66	-	
		⑲-1・2	北側新校舎	RC	4	1,035	1981	S56	39	新	-	-	-	36.3	長寿命	A	A	C	C	C	A	-	66	-	
			体育館	S	2	1,208	1974	S49	46	旧	済	済	-	-	長寿命	B	C	A	B	A	-	-	76	-	
	プール				1972	S47	48							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	
山王小学校 8,302㎡	入管	①-1・2	西校舎	RC	4	3,575	1976	S51	44	旧	済	済	2017	38.4	長寿命	B	B	D	C	C	A	C	45	-	C
		⑰-1・2	南校舎	RC	4	2,378	1976	S51	44	旧	済	済	2000	32.6	長寿命	B	B	C	C	C	A	-	56	-	
		⑫	東校舎	RC	4	1,399	1979	S54	41	旧	済	済	-	36.0	長寿命	D	D	C	C	C	A	C	32	-	
			体育館	S	2	950	1976	S51	44	旧	済	済	-	-	長寿命	B	D	B	B	B	-	-	55	-	
	プール				1977	S52	43							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	
入間野小学校 5,873㎡	入管	①-1・2	南校舎	RC	4	3,558	1978	S53	42	旧	済	済	2001	33.8	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	C
		⑮	北校舎	RC	4	1,370	1979	S54	41	旧	済	済	2001	36.0	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
			体育館	S	2	945	1979	S54	41	旧	済	済	-	-	長寿命	B	D	B	B	A	-	-	57	-	
			プール				1980	S55	40							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
御狩場小学校 5,960㎡	入管	①	校舎	RC	4	5,056	1982	S57	38	新	-	-	2017	25.2	長寿命	D	D	C	B	C	A	C	37	-	B
			体育館	S	2	904	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	A	D	B	C	C	-	-	50	-	
			プール				1984	S59	36							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
堀兼小学校 6,143㎡	堀兼	①-1・2	東校舎	RC	3	2,255	1967	S42	53	旧	済	済	2017	28.7	長寿命	B	C	C	C	C	A	C	46	-	B
		⑫-1・2・3	西校舎	RC	3	1,518	1973	S48	47	旧	済	済	2000	27.7	長寿命	B	C	C	C	C	A	-	46	-	
		⑮	南校舎	RC	3	1,309	1979	S54	41	旧	済	-	2000	30.3	長寿命	B	C	C	C	C	A	C	46	-	
			体育館	S	2	1,061	1972	S47	48	旧	済	済	-	-	長寿命	A	A	B	B	A	-	-	87	-	
	プール				1971	S46	49							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	

建物基本情報										構造躯体の健全性					躯体以外の劣化状況評価							共用			
施設名	地域	棟番号	棟名	構造	階数 地上階	延床面積 (㎡)	建築年度			耐震安全性					棟							健全度 (100点満点)	プール	外構	
							西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/㎡)	判定	屋根・屋上	外壁	内部	電気設備	給排水設備	冷暖房設備				昇降機設備
狭山台小学校 8,331㎡	狭山台	①-1・2	東校舎	RC	4	2,523	1974	S49	46	旧	済	済	2016	33.0	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	C
		⑮-1・2・3	西校舎	RC	4	2,974	1974	S49	46	旧	済	済	2016	35.7	長寿命	B	C	C	C	C	A	-	46	-	
		⑯	南校舎	RC	3	1,887	1978	S53	42	旧	済	済	2016	23.2	長寿命	A	A	C	C	C	A	-	66	-	
		体育館	体育館	S	2	947	1976	S51	44	旧	済	済	-	-	長寿命	A	C	B	B	A	-	-	68	-	
		プール					1975	S50	45								-	-	-	-	-	-	-	-	
新狭山小学校 7,168㎡	新狭山	⑭	中央校舎	RC	3	2,368	1975	S50	45	旧	済	済	2003	16.6	長寿命	D	C	B	C	C	A	C	54	-	C
		③-1・2	南校舎	RC	3	1,353	1975	S50	45	旧	済	済	-	34.5	長寿命	C	B	C	C	C	A	-	53	-	
		⑮-1・2	北校舎	RC	3	1,149	1975	S50	45	旧	済	-	2017	34.5	長寿命	C	B	B	C	C	A	-	66	-	
		⑯	東校舎	RC	3	1,343	1981	S56	39	新	-	-	-	-	長寿命	C	D	C	B	C	A	-	39	-	
		体育館	体育館	S	2	955	1975	S50	45	旧	済	済	-	-	長寿命	B	B	A	B	A	-	-	87	-	
プール					1974	S49	46								-	-	-	-	-	-	-	-	C		
奥富小学校 4,695㎡	奥富	①-1・2・3	東校舎	RC	3	2,107	1965	S40	55	旧	済	済	1999	18.9	長寿命	C	C	C	C	C	B	C	42	-	B
		⑭	西校舎	RC	3	1,431	1977	S52	43	旧	済	-	2017	28.7	長寿命	C	C	C	C	C	B	C	42	-	
		体育館	体育館	S	2	1,157	1974	S49	46	旧	済	済	-	-	長寿命	B	A	A	B	A	-	-	94	-	
		プール					1990	H2	30								-	-	-	-	-	-	-	-	
柏原小学校 6,641㎡	柏原	①-1・2・3・4	南校舎	RC	3	2,333	1964	S39	56	旧	済	済	2017	34.6	長寿命	B	C	C	C	C	A	C	46	-	C
		⑭-1・2	北校舎	RC	3	2,094	1977	S52	43	旧	済	済	1998	34.9	長寿命	B	C	C	C	C	A	C	46	-	
		⑳-1・2	北側新校舎	RC	4	1,088	1985	S60	35	新	-	-	2017	44.3	長寿命	D	D	C	C	C	A	-	32	-	
		体育館	体育館	S	2	1,126	1973	S48	47	旧	済	済	-	-	長寿命	B	A	A	B	A	-	-	94	-	
		プール					1989	H1	31								-	-	-	-	-	-	-	-	
水富小学校 4,914㎡	水富	①-1・2・⑮	西校舎	RC	3	947	1965	S40	55	旧	済	済	2001	29.4	長寿命	B	C	C	C	C	A	-	46	-	B
		⑭	東校舎	RC	3	1,694	1966	S41	54	旧	済	済	2001	27.1	長寿命	C	C	C	C	C	A	C	43	-	
		⑧	南校舎	RC	3	1,334	1971	S46	49	旧	済	済	2017	23.1	長寿命	B	C	C	C	C	A	C	46	-	
		体育館	体育館	S	2	939	1973	S48	47	旧	済	済	-	-	長寿命	B	A	D	B	A	-	-	58	-	
		プール					1989	H1	31								-	-	-	-	-	-	-	-	
広瀬小学校 6,863㎡	水富	⑭	北校舎	RC	4	1,237	1975	S50	45	旧	済	-	1999	32.6	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	B
		⑬	中央校舎	RC	4	1,129	1975	S50	45	旧	済	済	1999	31.7	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
		①-1・2	南校舎	RC	4	3,060	1975	S50	45	旧	済	-	2017	36.5	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	
		⑮	南側新校舎	RC	4	490	1984	S59	36	新	-	-	-	43.0	長寿命	A	A	C	B	C	A	-	70	-	
		体育館	体育館	S	2	947	1976	S51	44	旧	済	済	-	-	長寿命	A	A	B	B	A	-	-	87	-	
プール					1977	S52	43								-	-	-	-	-	-	-	-	B		
笹井小学校 5,790㎡	水富	①-1・2	校舎	RC	4	4,794	1981	S56	39	新	-	-	2017	36.3	長寿命	D	D	C	B	C	A	C	37	-	B
		体育館	体育館	S	2	996	1982	S57	38	新	-	-	-	-	長寿命	A	D	C	C	C	-	-	36	-	
		プール					1983	S58	37								-	-	-	-	-	-	-	-	
中央中学校 7,124㎡	入間川	①	校舎	RC	4	5,123	1984	S59	36	新	-	-	-	43.0	長寿命	C	D	C	C	C	B	C	33	-	B
		体育館	体育館	RC	4	2,001	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	C	C	C	-	-	28	-	
		プール					1984	S59	36								-	-	-	-	-	-	-	-	
入間川中学校 7,647㎡	入間川	①	校舎	RC	4	6,125	1980	S55	40	旧	済	済	2017	34.7	長寿命	A	B	C	B	C	A	C	63	-	B
		体育館	体育館	S	2	1,166	1981	S56	39	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	A	A	-	-	76	-	
		武道場	武道場	S	1	356	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	C	C	C	-	-	28	-	
		プール					1982	S57	38								-	-	-	-	-	-	-	-	

施設名	地域	建物基本情報							構造躯体の健全性					躯体以外の劣化状況評価							共用				
		棟番号	棟名	構造	階数 地上階	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性		長寿命化判定(簡易)			棟							プール	外構		
							西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/mm ²)	判定	屋根・屋上	外壁	内部	電気設備	給排水設備	冷暖房設備			昇降機設備	健全度 (100点満点)
山王中学校 8,841㎡	入曽	①-1・2	北校舎	RC	4	2,626	1977	S52	43	旧	済	済	2017	44.7	長寿命	A	C	C	C	C	A	C	48	-	C
		②-1・2	中央校舎	RC	3	1,513	1977	S52	43	旧	済	済	2008	39.4	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
		③-1・2	南校舎	RC	3	1,696	1977	S52	43	旧	済	済	2008	43.9	長寿命	A	A	D	C	C	A	-	54	-	
		④	北側新校舎	RC	4	1,494	1981	S56	39	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	A	-	66	-	
			体育館	S	2	1,162	1977	S52	43	旧	済	済	-	-	長寿命	A	A	A	B	A	-	-	96	-	
			武道場	S	1	350	1981	S56	39	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	C	B	C	-	-	33	-	
			プール			1978	S53	42							-	-	-	-	-	-	-	-	A		
入間野中学校 8,016㎡	入曽	①	校舎	RC	4	5,766	1987	S62	33	新	-	-	2017	22.9	長寿命	D	D	C	B	C	A	C	37	-	B
			体育館	RC	4	2,250	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	C	C	-	-	54	-	
			プール				1987	S62	33							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
堀兼中学校 6,763㎡	堀兼	①-1・2	東校舎	RC	4	2,478	1970	S45	50	旧	済	済	2006	23.8	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	C
		②-1・2・3	西校舎	RC	4	2,312	1975	S50	45	旧	済	済	2017	29.1	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
		③	南校舎	RC	4	899	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	A	-	66	-	
			体育館	S	2	875	1970	S45	50	旧	済	済	-	-	長寿命	A	C	B	B	A	-	-	68	-	
			武道場	S	1	199	1978	S53	42	旧	済	済	-	-	長寿命	A	A	B	C	C	-	-	78	-	
			プール				1970	S45	50							-	-	-	-	-	-	-	-	-	
狭山台中学校 8,453㎡	狭山台	②-1・2	北校舎	RC	3	2,730	1975	S50	45	旧	済	済	2017	28.1	長寿命	A	B	C	C	C	A	C	58	-	C
		①-1・2	中央校舎	RC	3	2,801	1975	S50	45	旧	済	済	2017	37.6	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
		③	南校舎	RC	3	1,409	1982	S57	38	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	C	C	C	A	-	58	-	
			体育館	S	2	1,157	1976	S51	44	旧	済	済	-	-	長寿命	A	C	B	B	A	-	-	68	-	
			武道場	S	1	356	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	D	D	A	B	A	-	-	61	-	
			プール			1975	S50	45							-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	
西中学校 10,532㎡	水富	①-1・2	北側西校舎	RC	3	1,839	1961	S36	59	旧	済	済	2017	22.1	長寿命	A	A	D	C	C	B	C	53	-	C
		②	北側東校舎	RC	3	1,715	1961	S36	59	旧	済	済	2017	27.0	長寿命	A	B	D	C	C	B	-	46	-	
		③-1・2	南側西校舎	RC	2	1,151	1965	S40	55	旧	済	済	2007	28.6	長寿命	A	B	C	C	C	B	-	57	-	
		④	南側東校舎	RC	2	1,193	1972	S47	48	旧	済	済	2017	29.7	長寿命	A	B	C	C	C	B	-	57	-	
		⑤	北側東新校舎	RC	3	623	1974	S49	46	旧	済	済	2017	18.7	長寿命	A	A	D	C	C	B	-	53	-	
		⑥	北側西新校舎	RC	3	1,281	1986	S61	34	新	-	-	2017	32.2	長寿命	A	B	C	B	C	B	-	62	-	
			体育館	RC	3	2,730	1997	H9	23	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	A	B	-	-	75	-	
			プール			1968	S43	52							-	-	-	-	-	-	-	-	-	C	
柏原中学校 6,513㎡	柏原	①	東校舎	RC	4	4,639	1981	S56	39	新	-	-	2017	44.6	長寿命	D	D	C	C	C	B	C	31	-	B
		⑬	西校舎	S	1	345	1997	H9	23	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	B	B	B	-	87	-	
			体育館	S	2	1,173	1982	S57	38	新	-	-	-	-	長寿命	A	D	B	A	A	-	-	63	-	
			武道場	S	1	356	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	C	B	C	-	-	45	-	
			プール			1983	S58	37							-	-	-	-	-	-	-	-	-	B	

学習環境 (ドライレ)		仕様・性能								工事履歴(竣工時→現在まで)																													
		外部		電気	給排水	空調		プール		60年前			50年前		40年前		30年前		20年前		10年前																		
		屋根・屋上	外壁	サッシ	受変電	自家発電	給水	浄化槽	空調機	昇降機			旧耐震基準		新耐震基準						2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019									
		II	II	II	II	II	II	II	II	II	1960	1969	1970	1979	1980	1989	1990	1999	2000	2009	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(H31)									
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	給食	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
III	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
II	II	複層	複層	アルミI	高圧	なし	水	個別	給食	-																													
I	I	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	給食	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
III	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	給食	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
III	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
I	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	併用	給食	-																													
II	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	単一	-	-																													
I	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	単一	-	-																													
I	II	塗膜	複層	アルミI	高圧	なし	水	併用	-	-																													
III	IV	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													
II	II	露出	複層	アルミII	高圧	なし	水	併用	給食	-																													
-	II	露出	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
III	IV	金属	複層	アルミII	高圧	なし	水	個別	-	-																													
-	I	金属	複層	アルミ	高圧	なし	水	個別	-	-																													
		-	-	-	-	-	-	-	-	-																													

狭山市学校施設長寿命化計画

発行日：令和 3 年 8 月

発行：狭山市教育委員会

編集：狭山市生涯学習部教育総務課

〒350-1380 埼玉県狭山市入間川 1-23-5

TEL 04-2953-1111

E-mail : kyoiksom@city.sayama.saitama.jp